

天保
刻成

京都順覽記

京都名所圖

與方始... 乾... 神...

同順路案内記

神社佛閣由來
諸方道法付

諸順拜記

ル 4
5233
2





宇治

門 4

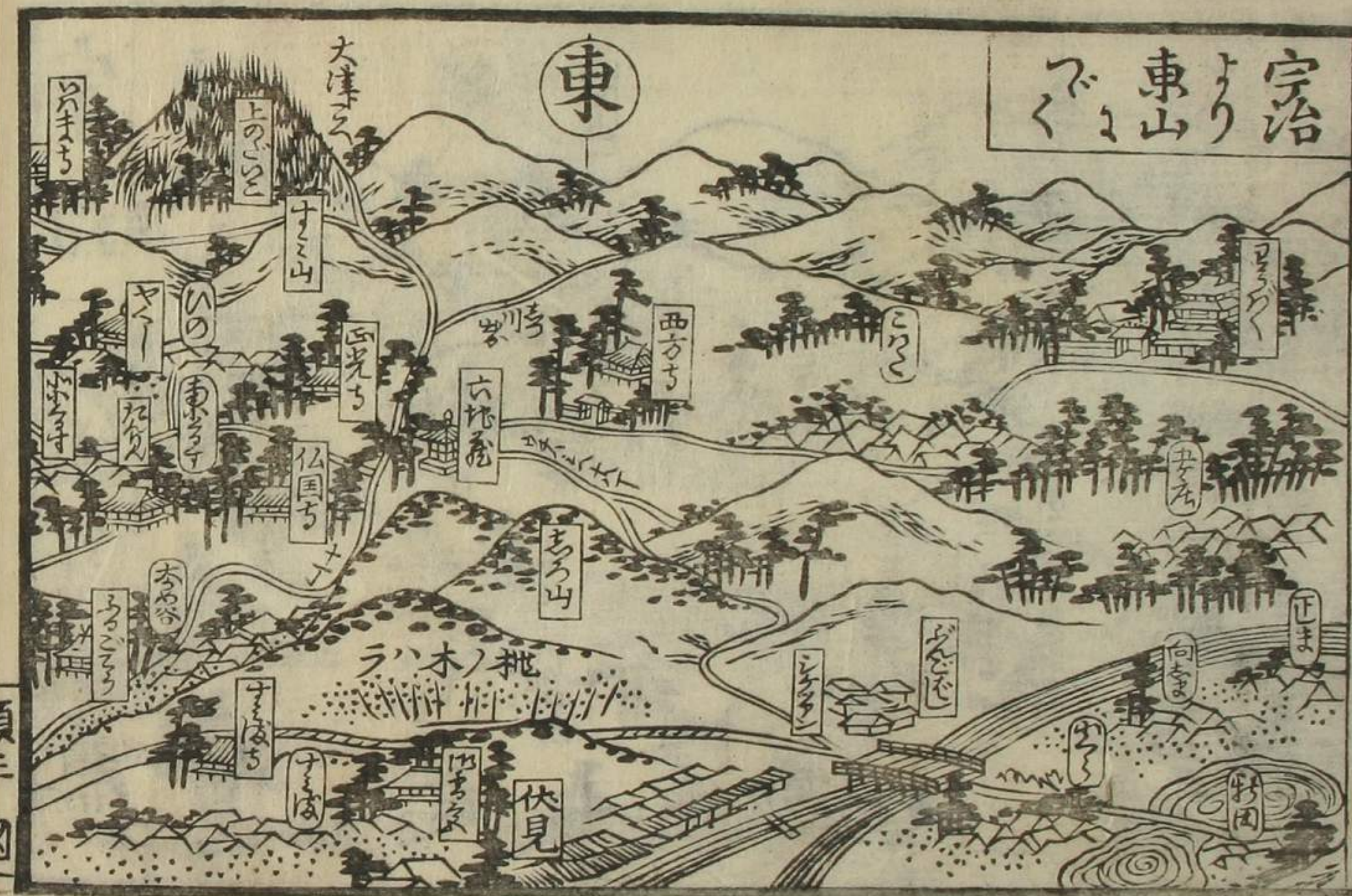
花名所

都の巽にまう良むし花
 経く坤まう

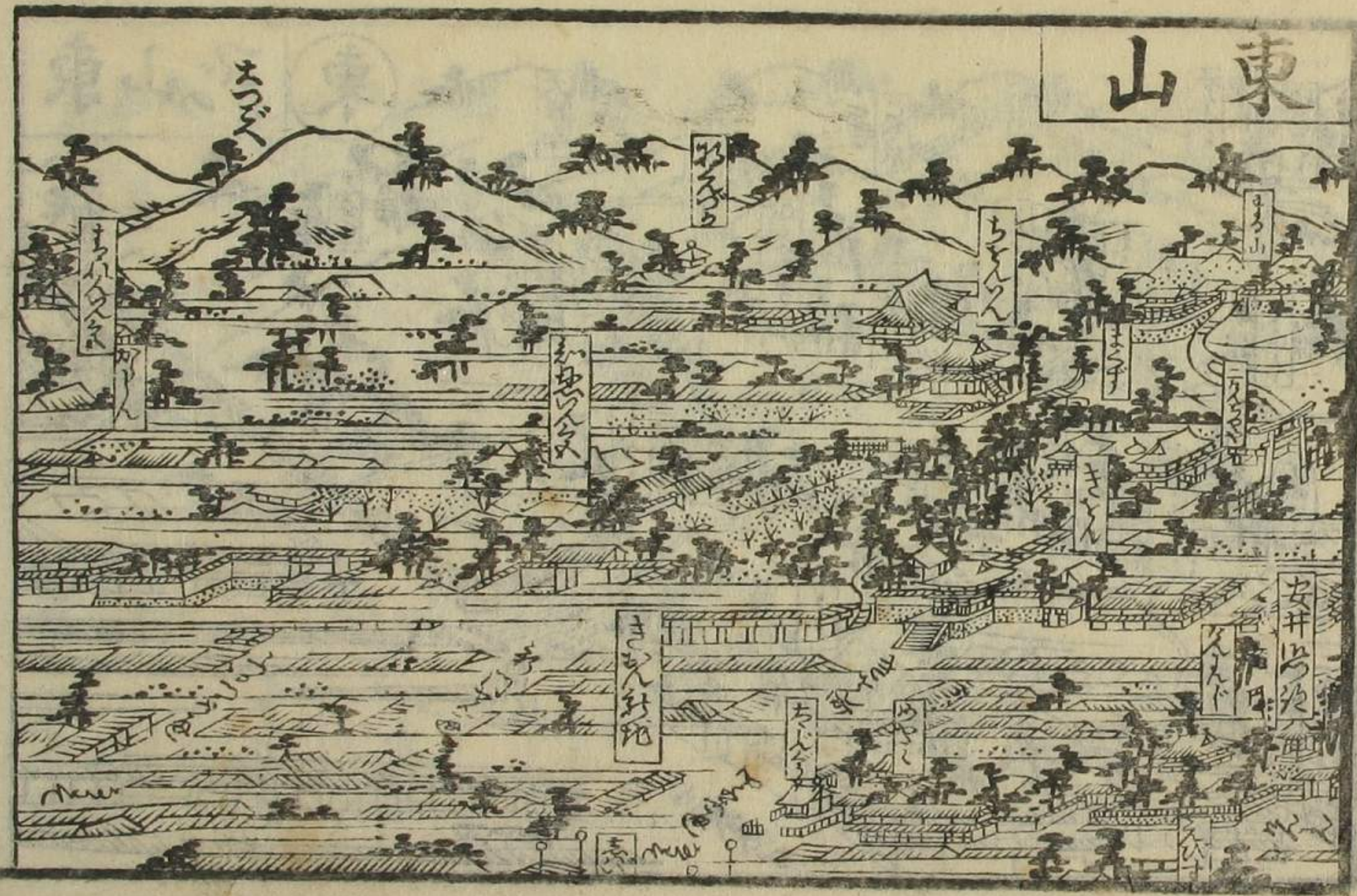
東

須三

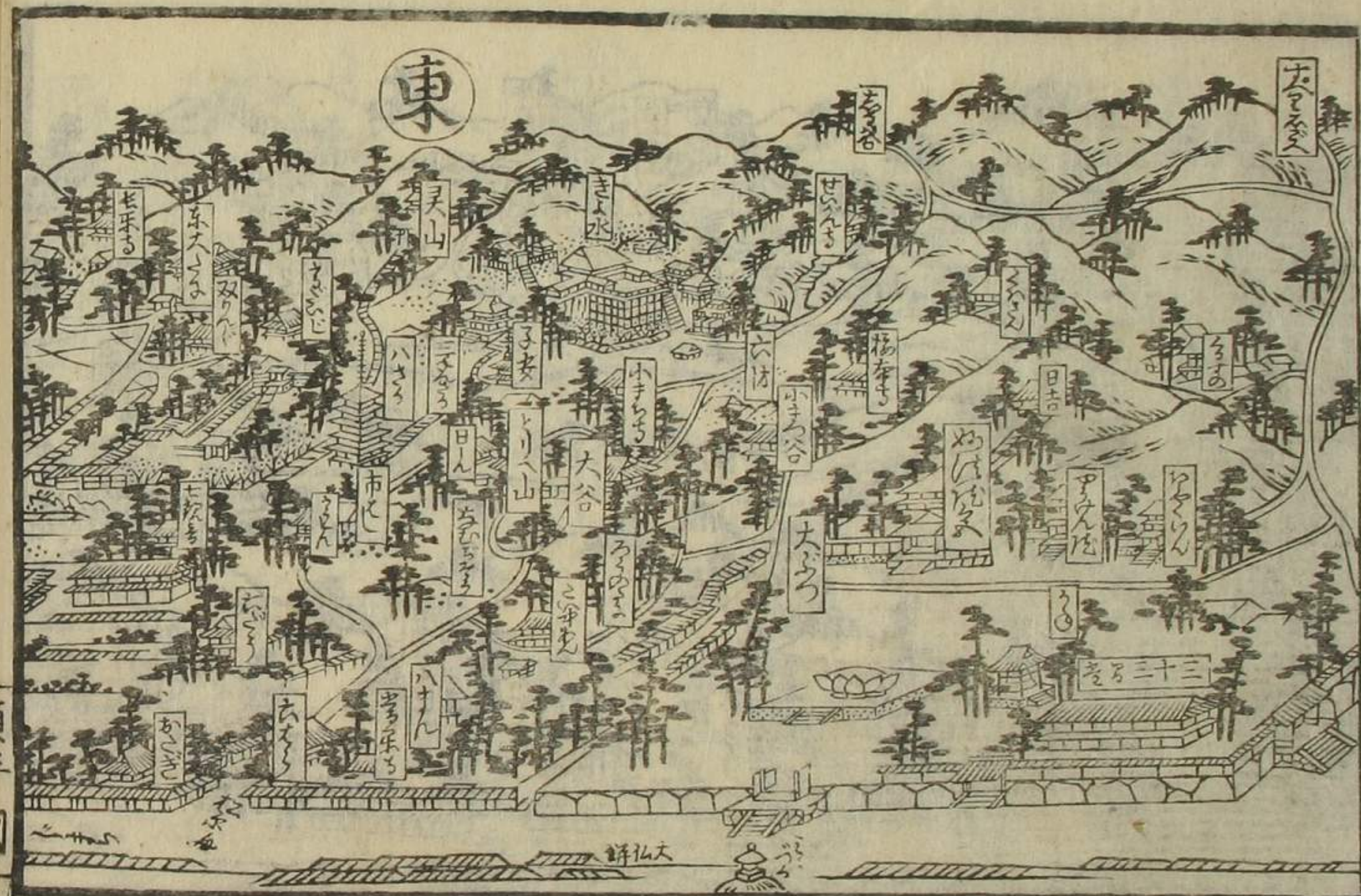
44-5117

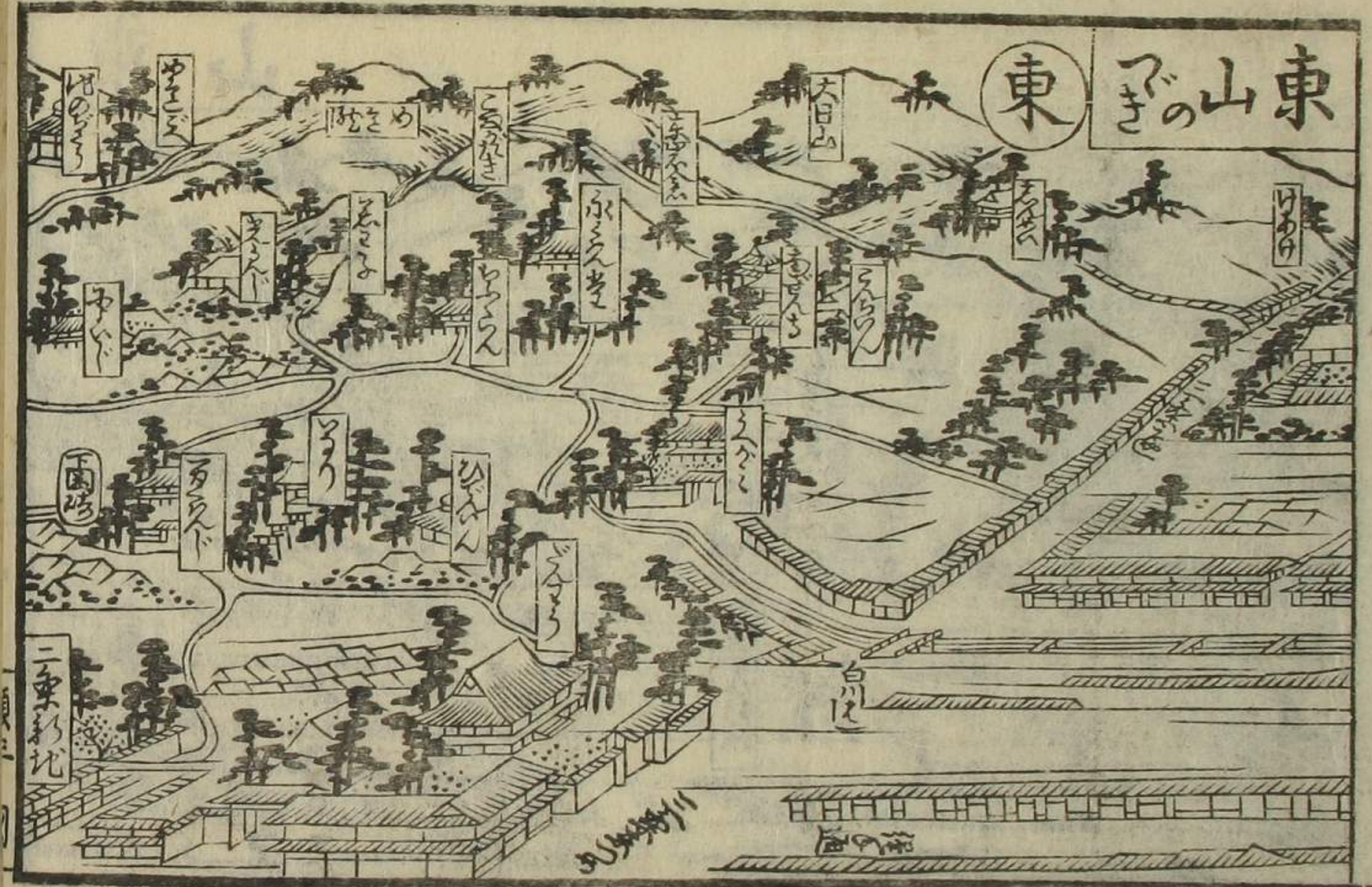
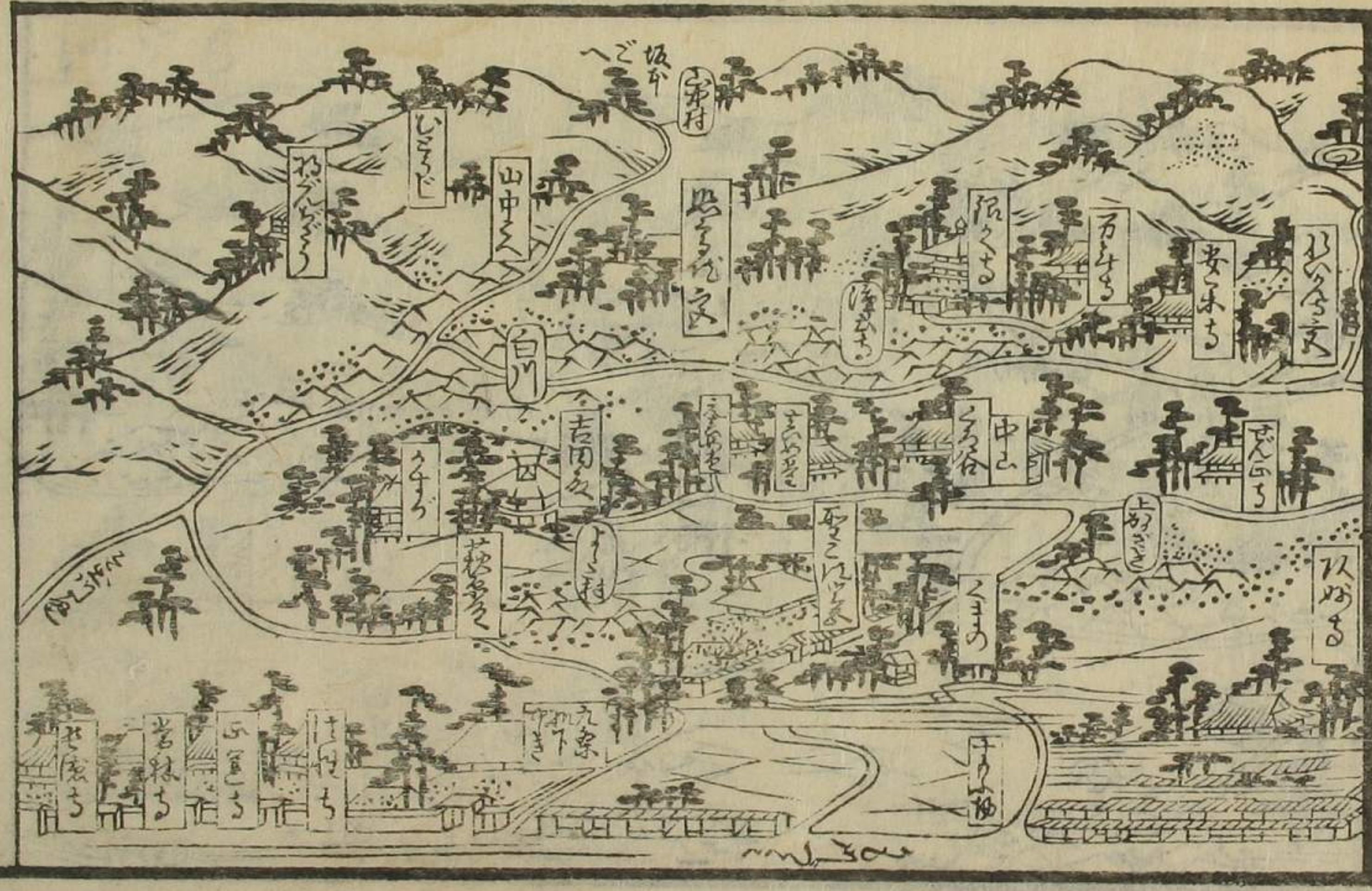


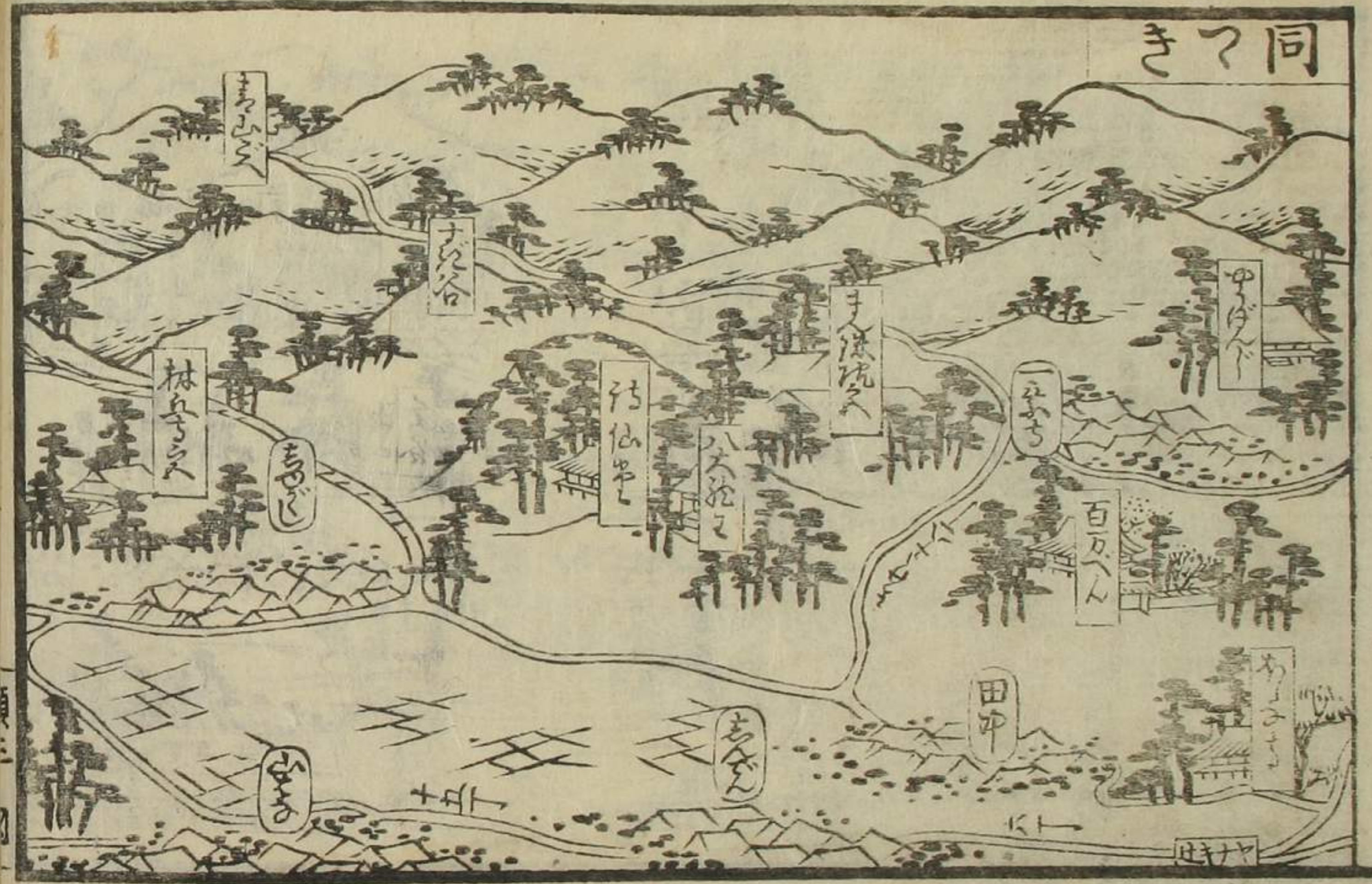
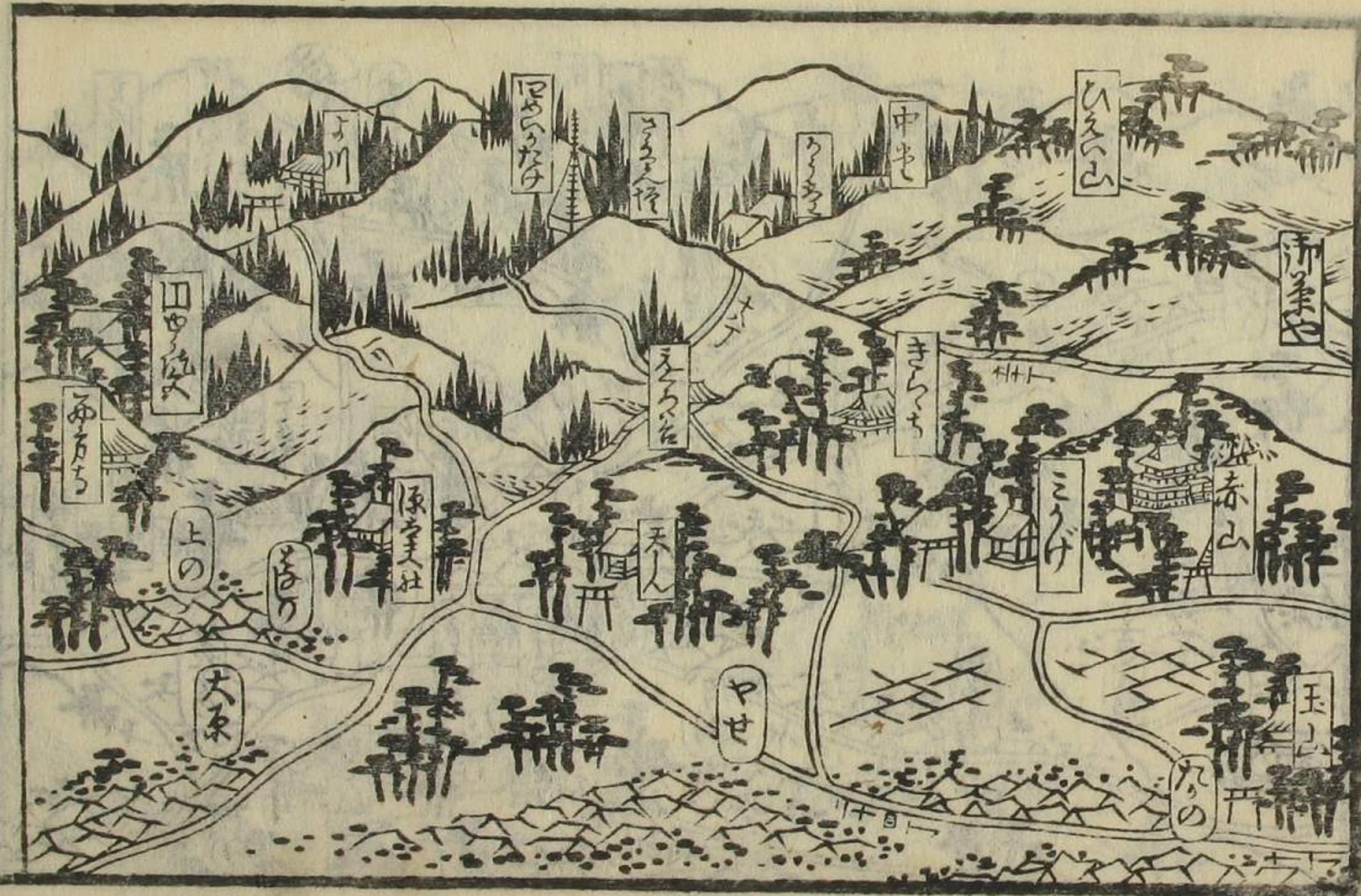
山東

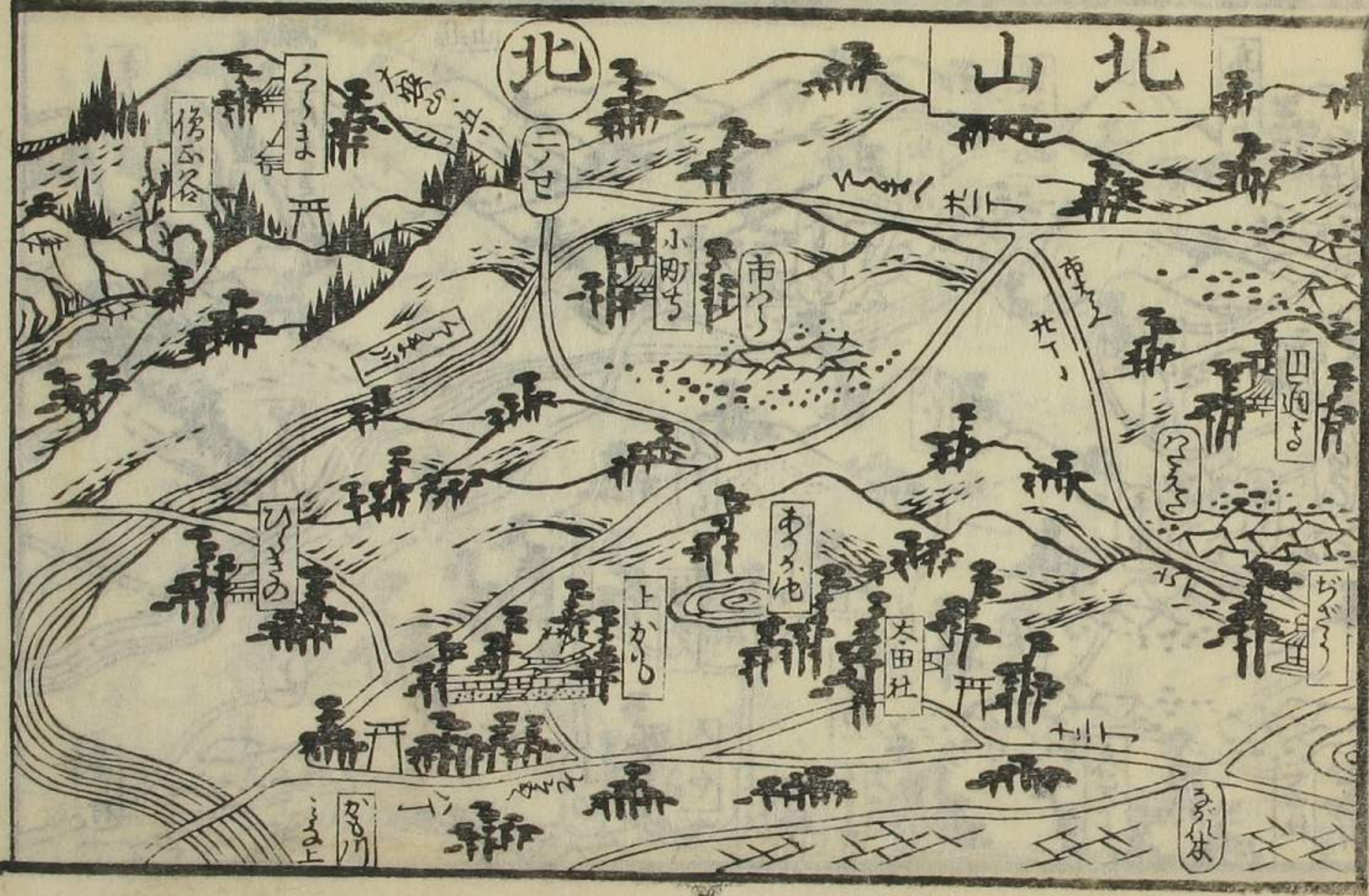


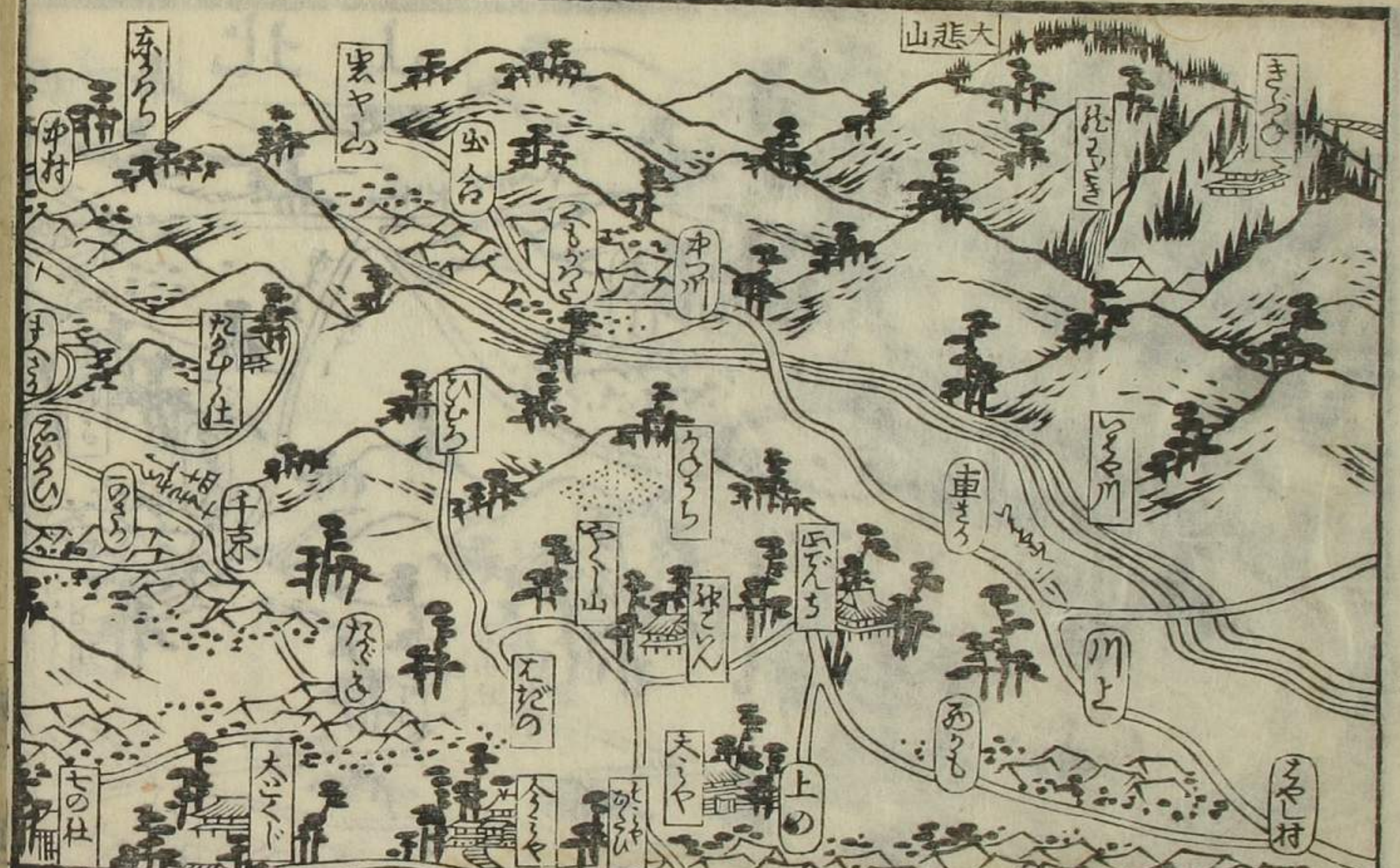
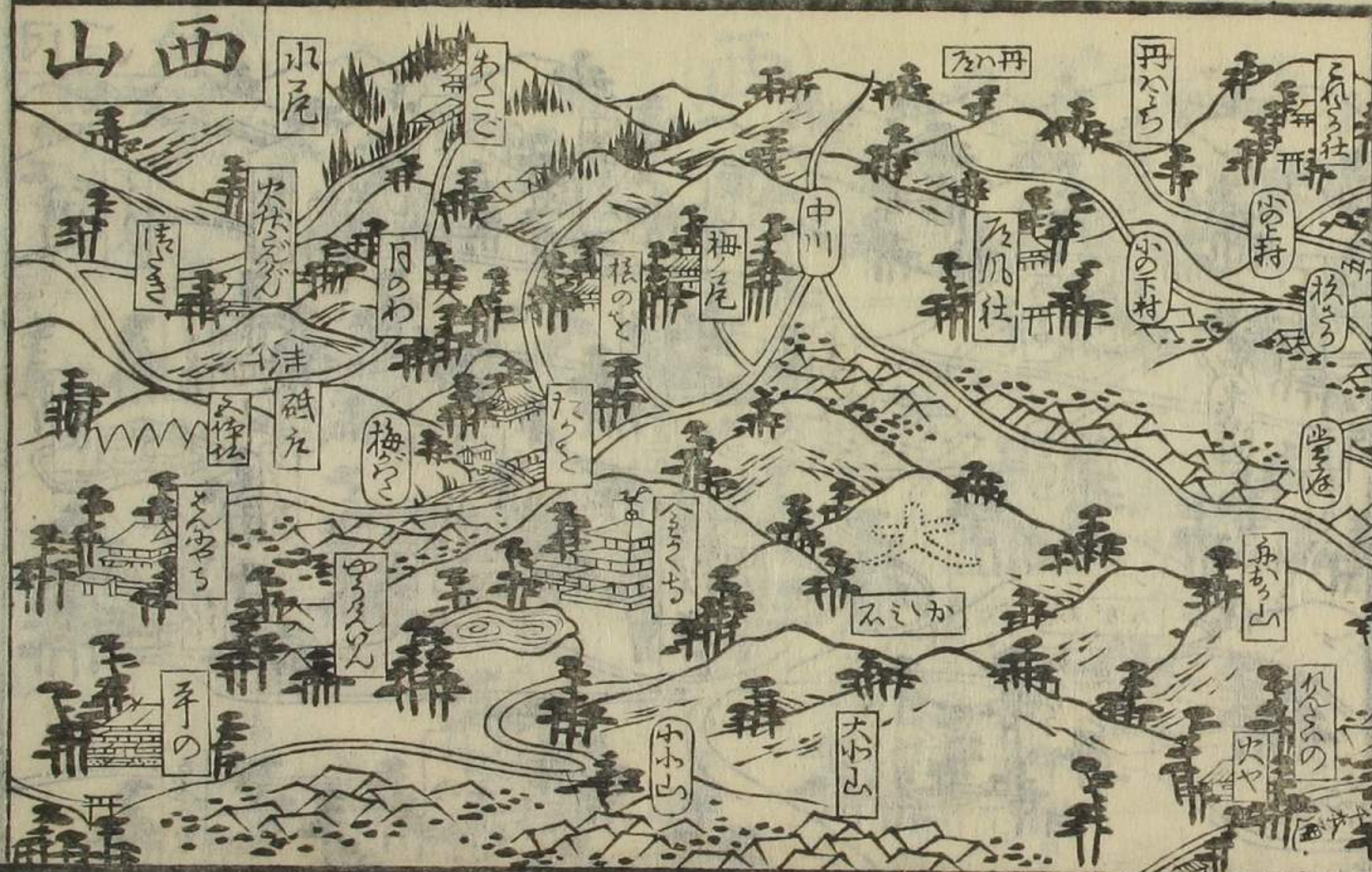
東

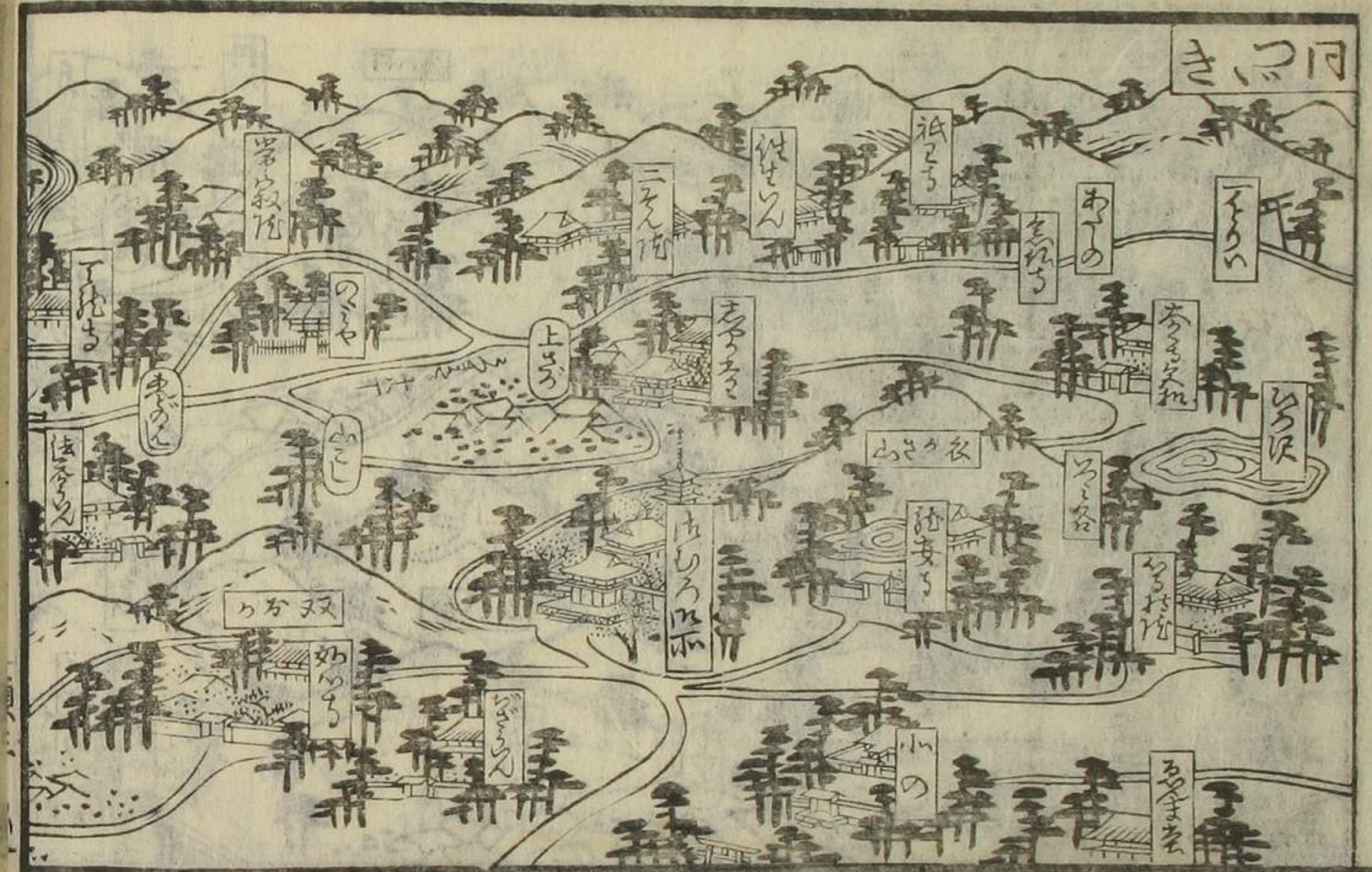
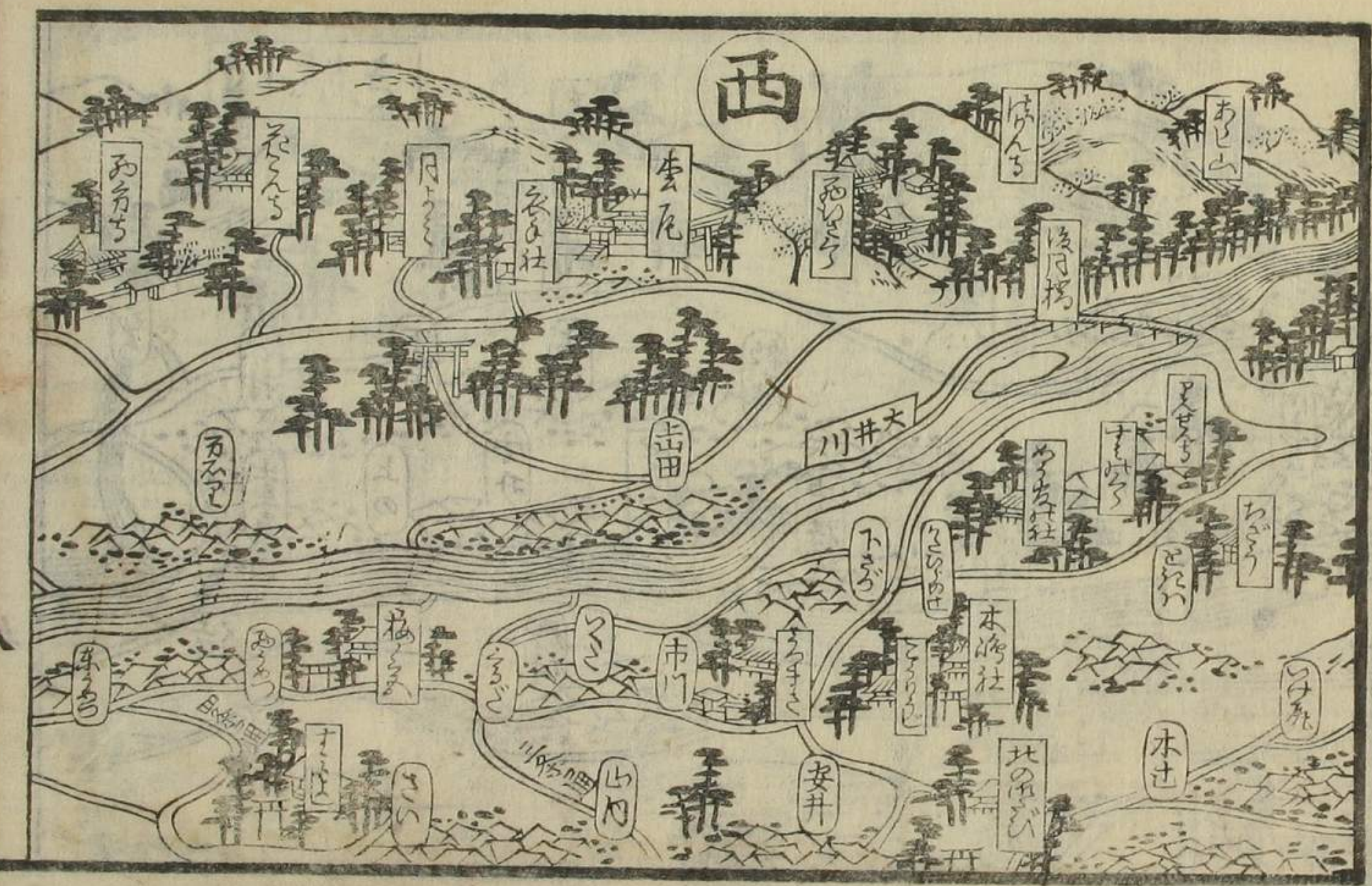


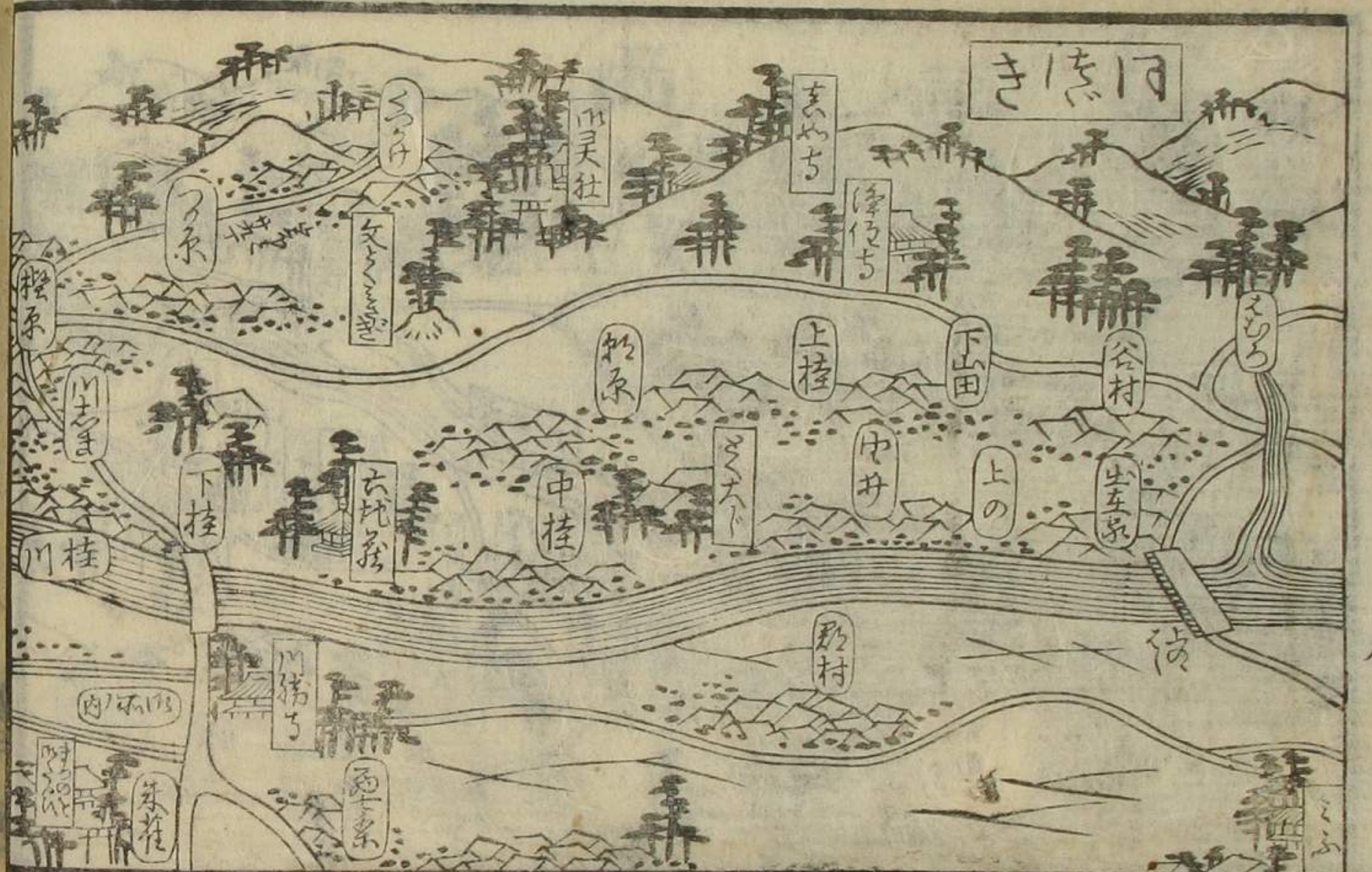
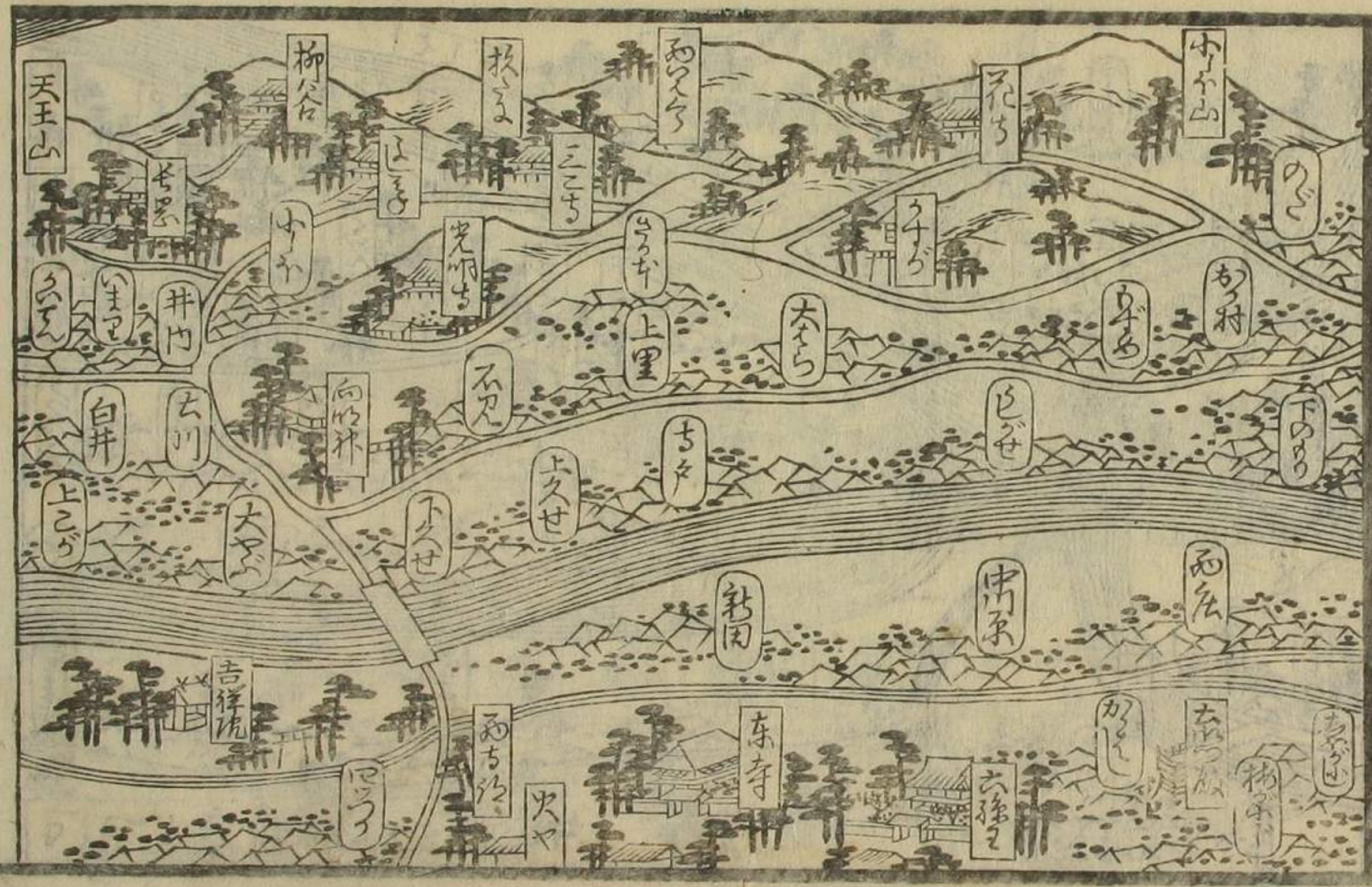


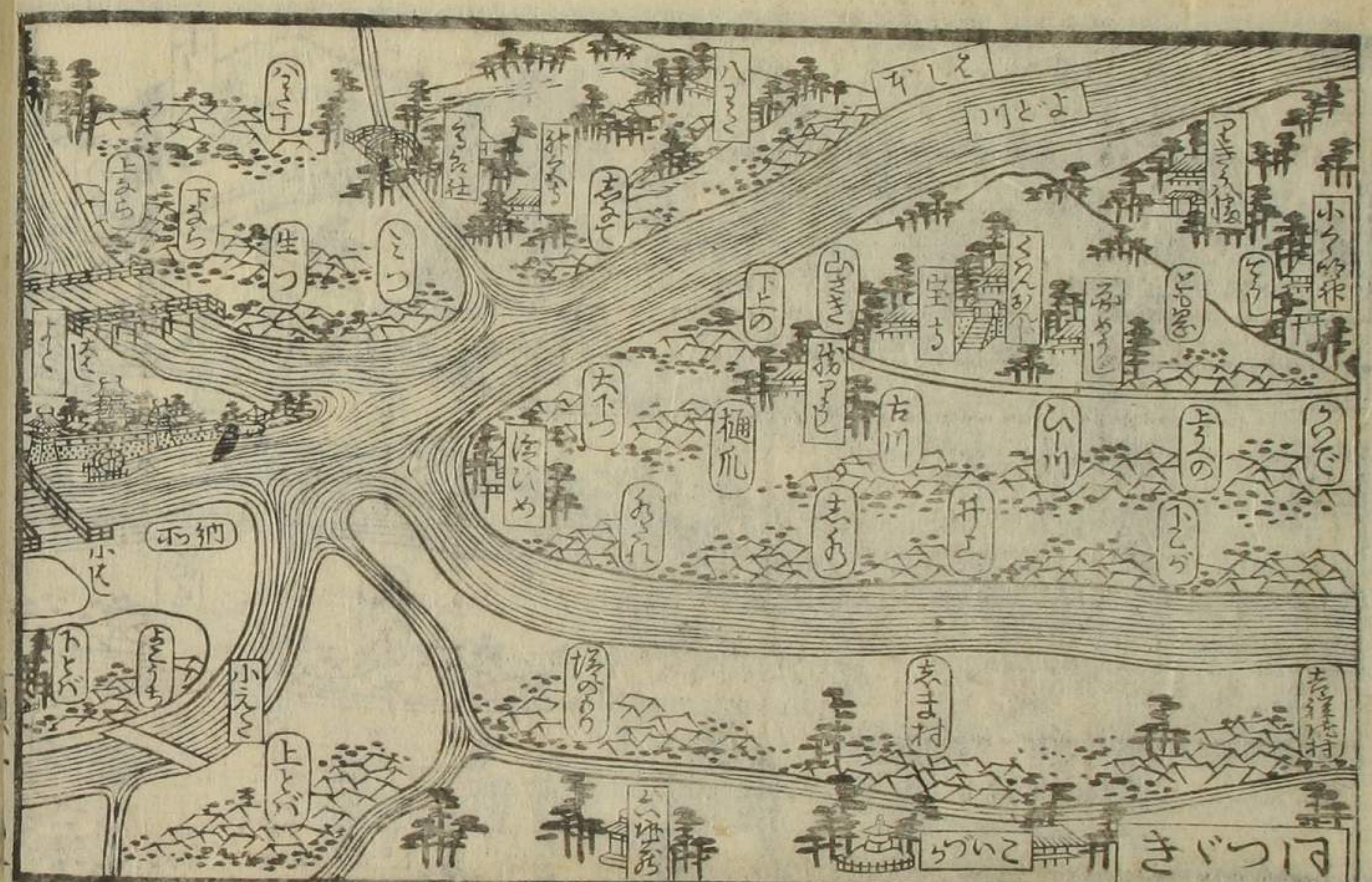
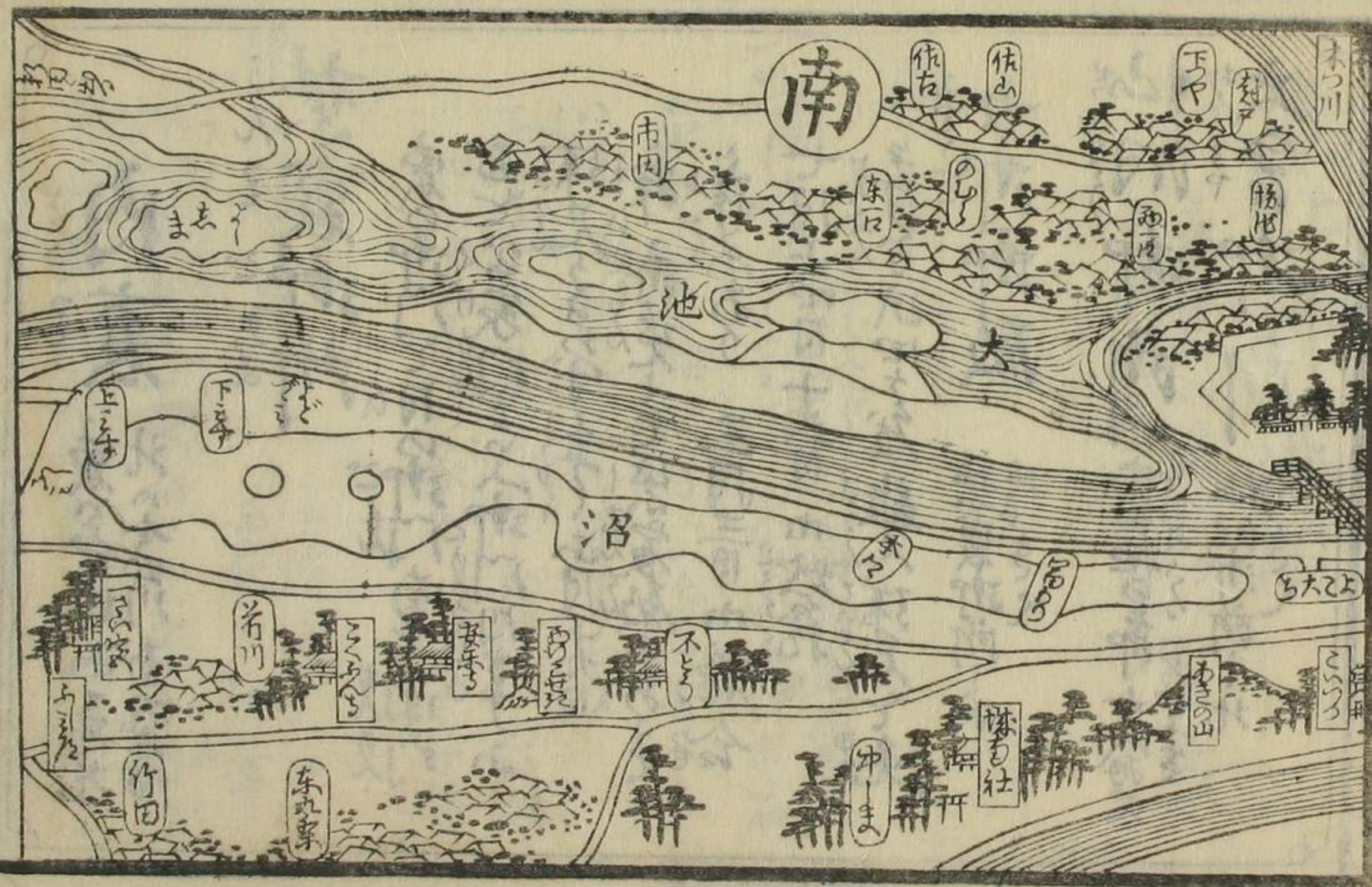












内裏 東の寺那西為丸
北の金出川南丸寺

禁裏御所

東の御門と目の御門南と南門
西と公家門と一御門内常小
拜見うまの守年二月十九日
拜見御所と東宮夜殿のあそ
拜見あり 二月三日水鏡合

七月十四日十日水鏡合

拜見けいけい及難人拜見と免

女御御所 禁裏御所より
はきき

仙洞御所 仙洞御所の節女入抱見
とゆらるる口伝

大宮御所 仙洞御所より
はきき

京都神社佛閣

寺社号の之角とある丁付の三乘
大橋より石法なり

大橋より八丁

六角堂頂法寺 六角通為丸東入
天台宗 寺領き石

本尊如定輪親青合像御長一寸
八歩淡路國岩屋浦より出況

聖徳太子御建立。西國十八巻札所
池坊 立花の家元 七月七日
まあり

二下
誓願寺 寺町三乘下
寺領十六石九斗

源州後義の一本山なり奉為阿弥
陀佛長八尺在像春日明神作と

三丁
つゝ天智天皇御草創開山惠隱法師・南寺の南より三丁き

三丁
浄心院

浄心寺南
俗に和泉式部寺と云
本宮阿弥陀仏南寺御堂園白
石長公草創して小川一葉ありと
ありて移す和泉式部をかりて後
けりしなり

和泉式部塔 侍小形塔あり

四丁
清帯寺

本宮後帯地蔵 婦人安産の
祈願せり

大本山圓福寺

寺町南東御通
古刹十八石

源州原我一本山之本宮阿弥陀佛
法苑上人作

○南葉脚

境内あり本宮南葉脚
石像長身天侍大脚の作性
三葉堂ありありて水と葉脚と稱せり
とありて移す二丁也

又下
綿天神社

寺町綿中宿の南
時宗

新天満宮 當古は糸巻山親
在光寺河系院六条通切と云す
一遍上人の甥雪氣上人の性名六条根
敷の傍にて融た大石伝ひしに
とありてありてなせしと云す

六丁
綿後山金蓮寺

寺町綿中宿の南
時宗

本宮阿弥陀佛本堂浄河上人の御
乃坊と号す・南三丁

ぎかんかふひまよ
紙園寺旅所 伊東寺所

感神院寺旅所 毎歲六月七日より
十日と神楽は春と安く暮るあはれ
山坪は神楽あはれなり

七丁
龍池山大雲院 寺町伊東下所
浄土宗

寺町伊東下所 龍池山大雲院
人 安長信長公御父の御大答
の常ふしつと草創すなり
○信長公信長公の御あり

。こまきより下寺系通まで法寺あり
とも思ふく南寺の二丁め松光寺通
とあり四丁あり

十一丁
松光寺御門跡 松光寺通御門跡あり
山形六石八半

本寺阿彌陀菩薩大願の御事
親善寺人御事子共佛上人中興の
了原上人九代目松光上人御事
御事とて天台宗に教はれ此
戒律とて是より佛の旨とあり
後醍醐天皇此御事御事 松光中興
光明を教らるより 勅して松光寺
とありとありとあり。三丁あり

十四丁
因幡堂平等寺 松光通為丸あり
俗因幡堂御事 山形
本寺系御事 如來立像あり二寸 親善寺
本寺系御事 如來立像あり二寸 親善寺
日本三系系あり。六丁あり

北一丁
東本願寺御門跡 東本願寺
親善寺御事 世如上人の嫡子如來

三

上人けんごう長七ちゅうしち年 名命なのみことと家いへりて草
創つくりし本堂ほんどう聖人せいじん自作じやくの像ざうと安やすき
阿彌陀あみだ堂どう本堂ほんどう安やすの跡あとの作つく立像たつざう三
天てん・又また丁ぢやうりく

九六丁

本願寺御門跡

あ六条 御杖二百八

高たか寺てら親おや雷かみなり聖せい人の御み奉ほう教きやうして西にし近ぢか
仁にのら十じゅう一いち年ねんと經けいく文ぶん永えい九く年ねん活くわく東とう
大だい谷や小こ山さん家け家け敷しきをお初はつに本願げん寺てらと初
年ねんとまままのら兵へい亂らんようんとあまくふ
移うつりて天てん正しやう十じゅう九く年ねん八はち月げつ六ろく日にち地ぢをう移うつりて
本堂ほんどう在ある像ざう長ちやう三さん尺せき八はち寸すん開ひらきし自みづか作つくの
像ざう世よも骨肉こつにくの御み奉ほう教きやうして阿あ彌みだ陀だ堂どう本ほん堂どう
の立た立た像ざう長ちやう三さん尺せき三さん寸すん日にちの他ほかなり・又また丁ぢやうりく

北二丁

真正寺御門跡

あ六条四段門 御杖二百八

本堂ほんどうの御み奉ほう教きやうして安やすき
寺てら後ごに文明めい寺てら中ちゆう經けい長ちやう上人じやうじん
坐ますあのら大だい徳とく海かいはりがまままをお初はつに本願げん寺てらと初
年ねんとまままのら兵へい亂らんようんとあまくふ
移うつりて天てん正しやう十じゅう九く年ねん八はち月げつ六ろく日にち地ぢをう移うつりて
本堂ほんどう在ある像ざう長ちやう三さん尺せき八はち寸すん開ひらきし自みづか作つくの
像ざう世よも骨肉こつにくの御み奉ほう教きやうして阿あ彌みだ陀だ堂どう本ほん堂どう
の立た立た像ざう長ちやう三さん尺せき三さん寸すん日にちの他ほかなり・又また丁ぢやうりく

三十七丁

教王護國寺秘密傳法院

東とう寺てらと稱すままま宗しゆう 又また稱なづかふは大
師し桓くわん武ぶ天てん台たい御み奉ほう教きやうして
○御み生せい門もん 平安へいあん城じやう大だい内ない裡りのままま此
南なん門もんがりりりとままま
○又また堂どう塔たつとままま二十九じゅうにゅう間ま横よこ又また百
・三十七さんじゅうしち丁ぢやうりく

三十四丁

美祥山大通寺

南なん寺てらのりりりとまままのりりりとままま

天徳中興去のち遷と名ありて六孫
王授現と崇むそのち孫人宗光の
後室三位神代作のひま空律師を法
しくしたるとか寺
。六孫王社村上天台内建立
。又下やゆり

三十丁

松原通南
千本通東

住吉天山年有系三幕あり林又房を
ゆゑ人免得せしめて假城所と披く
柳もゆゑ系ありと云々七年新
所又築よりつとまじそのち宮氷十八子
その朱蔭野よりつとまじ

七丁やゆり

二十丁
仁生寺
松原寺千本通
寺領 四丁六石

本寺地蔵井吐像三天定綱作
鑑意和尚并基。毎年三月十日
より廿四日まで大会仏ありねを
か寺壬生ねとらふ。七丁ゆり

二十丁

大光山本國寺
松川松原下所
ち仏 百又十又石

日蓮正宗本山かり初相及後念
松葉谷ありと法花堂と号け
宗光の寺なりと日蓮上人貞
和元年と云ふとす。七丁北

十二丁

極楽院光徳寺と号す本寺より西上
人自作の像を安す。神鼓宗といふ
境内八指あり有發の僧寺と系谷

極楽院光徳寺と号す本寺より西上
人自作の像を安す。神鼓宗といふ
境内八指あり有發の僧寺と系谷

と製し毎歲歲言ふ市仲ふ堂々。寺

十七丁

神泉苑

池通たまふ入
寺 百八十

善女龍王社の池の中奥ふありけ池
法成院池と号す大門徑のとき禁
中の庭池あり弘法大昨守敏と信力
を多し小町敷と録してるとのり又
後ふ又位の三爵と稱り権九の系細と
務の旨ひありしとくふいふ

北野へ北野

十六丁

二條御城

四十一丁

まこのえまんぢう

北野天満宮 社領 又百八十石

天曆九年右系七条の文子とくふ

をのふ神託ましくけふ小四社を建

立すそのら天徳二年大長作補

云河社と遠立しり

。北野社。後河川あり紙屋川と

り入。外丁り

四十三丁

平野社

小池の乾なり
社領 百石

系々神伊原平富階大江百姓の
氏神なり桓武天皇延暦四年以

造りある。七丁り

又十丁

金剛寺

夜更山の林
寺領 二百石

床院院もつ後小松院永年
物守義満公造り又三重樓園中

と法水院より二丁ありと安通寺二
丁の字を御書附り此本の御書
を安通寺二丁と宛書頂より入付
三間四角一板板に御書とて今御書
あり安通寺二丁ありと早す。十二丁系

四十八丁

今官社

此社あり
社名 石

此所の御書御書なり一系院の御書
正暦元年六月廿七日船岡よりあり
長保二年三月九日あり今あり
半紙天とて御書あり。四丁あり

四十四丁

龍寶山大徳寺

此寺通書あり
寺名 龍寶山大徳寺

後醍醐天皇勅所軍基大徳寺
此寺四丁あり。此寺御書あり此寺

当住居ありとあり。一丁あり

四十三丁

雲林院

此寺大徳寺の北
寺名 雲林院

淳和帝の御書ありと後天曆寺
の御書あり傷心遍照を御書とて此堂
塔敷あり今あり。此寺御書あり

四十二丁ありとあり

今官社

此社あり

瑞光院

安住院の北

性音法師御書ありと此寺の御書あり
此寺の御書あり。境内赤穂の義士に千七
士の塔あり。此寺御書あり。此寺の御書
此寺の御書あり。此寺の御書あり。

三十一丁
卯木山妙蓮寺 寺は四小川の

法皇宗開基日像上人柳屋仲良
といふその日像を御依り宅地と寄
附柳寺といふ後柳の字と云ふ
卯木山と号す高き竹宮おれるの
なるるとして日像上人自筆のまじり
あり後光嚴院のゆづ天下一大果寺
けしんごを桂川お持り徳島の江と
しおちら大南教日おふはとさより
日蓮上人の舌音庵号と稱す早

三十二丁
惠光山常陸寺 仏止の北

法皇宗開基日像上人ニテあり

三十三丁
般舟三昧院 今出川系を所

禁裏内通坊と稱す日宗の
て山惠尊上人存するの
像慈覺大所作 帝御代神降と
安とと・四丁也

三十三丁
惠照山淨福寺 一乘のあり

淨土宗存するの
軍臺源巻上人・六丁也

三十七丁
一乘庚坊 一乘堀川あり

安陪晴明十二お神と格下不結むと
又故小世依け格とて過とさく
又淨藏を所し不達とけ格とて
又小父か并送不切合淨務さむく
初め小父又頼生かさる淨務收んて

此處より文を記し死すより戻す
といふ・四丁北

三十一丁

般若山精進寺 小川の上五丁

浄土宗本尊の河原院安所跡作
寺付物鳴虎の名所あり・二丁北

三十二丁

般若山妙顯寺 小川の北

浄土宗よりして本尊の目像上人なり
支那釈迦の長三寸ありて黄金の目
甚上人持会仏なりとも・二丁

般若山妙覺寺 新町

浄土宗本尊の目像上人持会仏の金剛

力法弘法大師作・四丁東

二十五丁

上御霊社 鞍馬口宝河院
社

浄土宗八所出興茶花院天を二
年おぼろめなりけ地の上を寺なり
同く上出興の山ありとも・六丁東

二十二丁

萬年山相國寺 今出川北馬丸東
寺あり七百六十石

又山の寺一開基の寺名國師明徳
二年足利義満の建立に及ぶる経加
趣意を記しあり・五丁東

十九丁

浄華院 寺所今出川下
寺あり 五十石

浄土に在るの一なり本堂より法

慈上人の像と安室阿彌陀堂の
本尊も慈人の作なり清和天皇勅
額所慈尊大阿彌陀堂
の爲代勅額 具録著一・二丁南

十四丁

廬山天台講寺 浄花院南とあり

仁宗慈尊用基慈尊大阿彌陀堂の
元二大阿彌陀の像

十三丁

中御霊社 上四巻出所
毎歳七月十八日方

八月十八日と神楽を奏す

九丁

中御霊社 寺跡在る所下
社在

ある所上御霊社下

草堂

古岡竹や岡
杉取古と云 古に北石

天台宗本尊十一面観世音菩薩像
天香山上人作。西國十九巻札所
別ら得承上人上人常不楽報を
看すうが在在入草堂と云。一丁

五丁

本揚寺 仁京町二条

高田流本尊阿彌陀尊心作。本
堂の表書公社の改新に於て
・一丁り

六丁

妙塔山妙満寺 寺町二条南

法皇仁宗用基八月廿上人永徳二年
又月建立此古の積少の堀川あり

一とあふ移す。道成寺。續。續。

五丁。

本徳寺

寺町姉少北

はた宗開基日隆上人住持の御小

治六角小あつとをふつと

。織田信長公の塔

三丁

曼陀羅山天徳寺

寺町姉少南

浄土宗本寺の御院志公作

二丁

矢田山金剛寺

天徳寺南とあり

浄土宗本寺の御院志公作

右浄法凡又里あり

次の目録

小徳法
徳泉寺

本居町三束小徳下
浄土宗

本寺阿弥陀尊像志公作開基の二

の柱寂和尚本願白秀公の母堂

増徳院の秀公遺徳の御建立

あり。園白秀公を御二十人あり

妻の塚築。秀公遺徳塔俗にあり

大徳法
檀王法林寺

三條大徳法林寺
浄土宗

本寺阿弥陀尊像志公作中興又志公

中興中上人。至徳神皇佛と

五丁

圓法山頂妙寺

二束川橋東入
古刹 八十石

は花宗家春日親上人の樓つので二天
宮を慶安の縁の友作と遷換新しく
て宿人多し・旧丁

十丁
聖護院社
聖護院村

徳野之社
活活之社の二・旧丁

十二丁
聖護院宮
浄家以千四百石

修治通神本山候我天宮浄宇智信
大洲安基・十一丁ゆき

二十丁
長徳山知徳寺百方遍
田中村
寺領二十石

浄土法而旧々の一本古慈覺大洲州割
法徳上人中子勢親坊字舎を多る親

加仏慈覺大洲作・旧丁

廿二丁
千葉山光満寺
百方遍のあり
俗千葉寺といふ

六斎念仏の本寺と云ふ者も千葉
とせらるるよりこの山号とせらるる
一里廿二丁
・一リりり

御蔭社
比叡山持齋
御蔭山といふ

下鴨皇を神氣降臨の地と例系わ
れ月中の午日祭式教をかり
一里半
・四丁り

赤山社
徳寺より村の東

慈覺大洲帰船のとき慈徳のゆふ
なり。本坊堂の地を弁りて慈覺
大洲の地なり。徳仙をと八丁

林丘寺宮様 修学寺村
御家領三百石

修學院御茶屋

文政 御造受

一里十丁

詩仙堂 一系寺村
黄檗宗今尾寺

石川丈山の山荘之四條不唐宋の詩
人三十六人の像を画さそ待とす
故小待仙堂と号す。北山御坊と十丁

曼殊院宮様 一系寺村
御家領七百二十七石

一里

北山御坊 森系寺村

釈迦智人尊像本尊の無下
境内に池あり故小智水山并
系寺と号す。

一里十丁

仇生山御軍地蔵 白川のふ

本尊の石の地蔵尊長二尺は花
永禄年中城郭ありて足利軍輝
么細川晴元が焼す。

白川越々より白川御車(出)

春日社 吉田山あり

白銀年中中納言山内隆信

吉田殿 山内領五百九十石

神祇官御司

十九丁
古田社

社収二百九十石

日本第一神倉場法和天皇の御
親二年中納言山内親信・五丁

十九丁

紫雲山金瓶光明寺新志谷 百二十石

淨土法親四ヶの一寺も國光大師の御
蹟として敷山西院に合してつとま
元紀大師の徳と安んじ。此法親
。然谷堂。然谷教書の後。勢智
素光大師殿下。二寺塔寺も文殊
井日本之文殊の二。山内二丁

二十丁

冷聲山真徳寺真如堂 百五石

天台宗法和天皇の御受大師殿

基本寺の御縁陸の大師の御作
て垂徳とふ新とふり。八丁

二十九丁

若菜山可也寺 麻谷谷法徳院と云

本寺の御縁陸の大師の御作
んと人法徳上人の御縁と徳の
田蹟あり國法徳院と入。六丁
めの念仏とけもの徳と。とら

日

蓮山安楽寺 口のあり

本寺の御縁陸の大師の御作
後分経を安楽寺の御縁と徳の
みかり。銀堂。三丁

靈鑑寺宮

山家収百五十石

三十二行 浪周寺

一名慈照寺 古伝 三十二石

得宗公多景園所と家祖と守文明
十二年我政公別在と。二重の宮
今も不対と浪害とらふととの山
水とふたなり。六丁あり

二十八丁

善喜之山光聖寺

善喜子の御所 禪宗

南禅寺英仲和再興と。揚徳公の
手洗鉢名義と。二丁あり

二十四丁

山東山若王子

水鏡巻九併 古伝 七十石

天台宗修驗道と名帯とと本山
中後院とあり寺中社然野櫻現の
後白川法皇の勅傳と。二丁あり

聖燈來迎山禅林寺永見堂

淨土宗和山流から清和天皇勅願所
よしてま紹傳たると創奉る所阿波臣
をさるると号す長と定中興永観律所
十四丁 七丁あり

瑞龍山天平真國南禅禅寺

み山のて大明國所開山付地 龜山法
白の白雲居たりとと生所と極つる也
存るの釈迦文殊菩薩像とあり
今も地院 東無大権現の法華家也
こころとと法ととゆふとと。七丁あり

青蓮院宮

清家公三景云

寺務院 昔も天宮山とて修験大

所 皇太子を奉るる皇代苑の天照座を
よりの好む一のついで
今 飛騨寺 廣申寺 二後の像の天照
の心作らる
右二寺の山境のあり

八丁

花頂山御堂 俗、植杉寺といふ

宗廟の天皇やして一の宗儀と交り奉
るの御座る太の権と宗親重の重人の事
新と安す事夜刺貫重人の重人の事
なり 慈法和也と云ふ一の重人の事
賢の賢といは像、植杉寺より一の植杉
の事像と号し宗廟の人の御座る事

知恩院宮 中宗於千八百宗

五丁

華頂山大谷寺知恩院 七丁石

浄土宗親本山順徳院御堂園光
大師堂を奉る。一の院東の山とあり
。高光大師御堂。御座。山門
。樓馬場。山と下層の御座る
。親重の重人の御座るあり
。通山門在る事との御座るなり

六丁

感神院御園法 社於百四石

貞親年中攝入皇廣教よりいふ事
法親の一人中央年天宮奉る事あり八
王子あり。輪田姫とあり
。西門の御座る。御座る所とあり
。南門の御座る。二軒奉る下川奉
。惣一の御座る事あり

寺子も多病狂人ともなり

十丁

圓山安富寺 古刹八石四半

山門の別院にて佛光大師の御坐す
るに佛屋安富師建久年中慈法
和尙の御坐す時宗の御坐す
古中六指あり増築云々師連師
也師師云々師師云々師師云々
法養つらん方なり

十丁

東山長業寺 古刹八石

師坐す佛光大師の御坐す
時宗とありてむ年々十二面觀音と
す

十丁

古刹東山寺 古刹八石

十丁 東大谷

東本願寺の祖廟なり古寺なり師坐す
安富師師坐す佛光大師の御坐す
宣文寺中事刻りて之縁年中造り

十丁

今立山双林寺 古刹廿四石四半

古天台宗山門の別院佛光大師の
御坐すのら其徳年中時宗とあり
本寺の坐す師坐す佛光大師の
御坐す也師師坐す師師坐す
入石原の師師坐す師師坐す

八丁

安井觀音寺

古刹一平山建立宗徳院の御坐す
古刹一平山建立宗徳院の御坐す
古刹一平山建立宗徳院の御坐す

安井御門跡 御家銀三百石

十二丁 田一

就善峰山高基寺 古伝 六百石

此寺長年中秀若公此の殿所内建立
字名禅中具三に和尚宗書を有る
釈迦仏也系の類。秋のよのあふ

十六丁 田一

聖徳太子山法寺 古伝廿二石

佛教大僧軍中具國の上人等宗
本寺の釈迦の法隆寺を造るの地
とす。天竺古釋教社。田一

十二丁

八坂法親寺 古伝百石の寺創
地蔵堂あり

又重隆の年事も此寺に於て
淨苑寺新塔ありたし新念せし
六塔ありて元の寺とす

九丁

善光院山六波羅院寺 古伝七十石

西國十七番れ所とて宗を有る十二面觀
音立像を以て之とて上人作天竺六年
建立。阿古屋塚田松。一丁

十丁

珠白寺 六道と号す

本寺の系即此の傳を以て大僧の作
の寺に後修す。近隣。古寺あり
中寺に於て其より其寺通ひあり
。古寺より清水寺とす

七丁

經書堂

軍書堂

子安親善

光明寺后者娘帝

と傳たしつゝのふと天照を神より

授けしつゝのふと親善を長八守り

仇敵親善

無七氣氣清風とて

石ふ彫り

田村堂

田村親善の傳と妻す

海会堂

十八丁

音羽山清水寺

古銀百二十石

西國十六書札所を千手親善大付

二年坂上田村麻呂建立

奥院 奉る千手親善

地を拉況 大己半人命

音羽池 融けに融けして河をよと

増減なり 一丁より四丁まで南東の山

中ふ清軍の敵中山高野武く

三丁のい奉り

清閑寺

佐伯公の建立奉る千手親善

神の山作のふと會院後小督が横

十五丁

奉り

けしつゝのふと山とて入るふと右のふと

奉り大谷地内なり 一丁

大谷

奉り親善の所

親善を奉り奉り親善の文永九年此所

東山吉水の北大谷はなりとて奉り

奉りけしつゝのふと移す

けしつゝのふと移す

年塚

ちきり新伝のとき被りより対
そ級のうらふ解人の真をききて
ふまうてふ不埋む

妙法院宮様

御家次千二百三十三条

大佛殿

後陽成院御宇天正六年冬長尾吉
公御建立本堂を思念如仏中像御
丈六丈三尺八寸餘東西計十七間南北に
十二間御殿五間後堂のうす十八間出首
三間。樓門全剛力士長一丈四尺八寸餘
大長七尺八寸餘南面百二十尺東西面百
四尺五寸餘の大層なり。惜る寛政

十年七月二日大火を焼亡が今
ハ重礎のミ妙。・御産考は御田勇

清橋 御子原サキ定人
去丈四尺八寸のうす

十八丁

九尺八寸

三十三間堂

後白河院の御新くを備あの中平
忠也御子原千神出堂を建立すと
堂長廿六尺六寸二寸餘を拓とらる
うすく三十三間を拓とらる

新田吉社

後白河院御新伝

福積院

寺代又百石

まき新我々を字ふ御明王無我大

順の作軍山せきけんの山憲法御
二十丁
出の源院

天の宗あまのみとなる阿彌陀あみだを御座す
利りきも長政ながまさを創つく軍山ぐんざんの山憲法御
二十丁

今熊野いまくまのの御座す
後白河ごしろくわの御座す

二十丁
二十丁
二十丁

泉涌寺いづみやうじ 古殿 六百八十石

幼こどもの弘法こうぼう大師だいしの御座す
中なかの九く大だいの御座す
とかなの一人ひとり。人皇にんかう八はち十六じゅうろく代だいの御座す
天子てんし御座すの御座す
佛舍利ぶつせり。極ごく手ての御座す。二十丁

三十丁
今熊野いまくまのの御座す 西國さいごく十じゅう六ろく石

本ほんの御座す
○まの御座す
○まの御座す

廿三丁
東日あづまひの御座す 古殿 七百十石

日ひの御座す
軍山ぐんざんの御座す
自みづかみの御座す
○通とほ天てん橋はしの御座す

三十丁
稲いなの御座す 社やしろ 百六十石

人皇にんかう二に代だい元げん明めい天てん皇かう和わ綱なな臣しん年ねん
物もの現げんの御座す

地牛の月事後影一・十五丁

五十二丁

善徳社

社領 卅百石余

全人親己の月事と申す。毎年冬月各
社より馬あり

○又よりまの恵こひの伏見推山といふ
又此に字居りしに無方ありし

又十七丁
勸修寺宮

社領 卅十石

○又より卅丁迄の伏見より大津御所へ
・南へ外町あり

隨心院御門跡 社領 卅百石

小町水心門と云ふ小町は位一町あり

二丁 卅六丁の
三宝院御門跡 社領 卅百石

岡山の宮室の御門の流繪の四目

二丁
下醍醐

本寺の業師の末。旧より左様あり
本寺は善吉の建立。上の醍醐より

二丁
一言寺 本寺の親善安の孫作

あはれ 善の
河波の内付は像

三丁
上醍醐寺

寺領 卅石

貞観年中存る玉宮御の御事

本寺は善吉の建立。上の醍醐より

親善善吉の國十一書れ所也。女人捨割

・又より善吉の寺くみ千丁

又南へ卅三丁りてと炭山井戸

あり

二河丁 日神茶屋 法東寺と号す

本寺の茶所如真令細花後を尚も
初めの日神茶屋中女宿屋ありて
大寺なりしと云ふ。世人乳の物新乳と
云ふは是宿屋也。二十丁

二里半 柳大明神 本坊里あり

天母管とある

九十一丁 西方寺

本寺の縁色は座天台の心で定
一石の漁人縁色宿屋と云ふ者渡河に
細と云ふ深なる宿屋なり。又丁にて

二里半 黄檗山と福寺 古伝四百石

後水尾院出雲明徳元年建立開山
隱元和尚。十六丁にて

三里 三光寺 明徳寺と号す

本寺の子に親光元仁天台宗本願寺
して智燈大師の御堂。八丁
○付らるる時帳あり
○宿十帖の古伝あり

三三余 常光寺 放生院 称梅寺

本寺の地蔵井字堂及石和堂宇治
橋造と同時建立

口所 離宮八幡宮

五木寺 仁徳二帝乃以鬼道宗

三平 崇徳の御所 又月八日

佛徳山奥寺 曹洞宗

弘敏の親遊 弘と安高寺 園主 弘
元和 中興 永井 尚政 再興

朝日山東公院 法華宗

三三 余 本寺 大日如来 弘法 大伴の地 再興 弘
惠心 僧 別ら 七十七身 の像 寺 門 二
安高寺

三三 余 宇治 指 八十二身 又尺又寸 大化二年 乃

三三 余 照和 者 造之 指 中 經一 身 斗 法 出 せ 一 八
秀 吉 公 三 末 の 水 と 汲 せ ぬ 事 あり

三三 余 平等 院 本寺 河 孫 院 定 於 の 作
永 承 六 年 宣 旨 於 於 建

直弘 殿の 風 扇 七 かく ぐり 大 志 の 御 意
と あり 美 しく 後 の 扇 を 尾 と 寸 持 ぐ
雌 雁 の 風 扇 あり 別 ら 風 扇 あり 寸
早 子 子

○ 前 受 之 孫 三 位 輕 政 古 徳 一 寸 寸 あり

○ 是 等 川 鴨 池 池 邊 子 計 七 あり
伏 見 池 邊 後 橋 あり 寸

二三 余 指 月 山 月 指 寺 寸 二 指 づ あり

二三 余 淨 音 院 社 領 三 百 名

○ 是 等 川 鴨 池 池 邊 子 計 七 あり
伏 見 池 邊 後 橋 あり 寸

清く日曜

三系大橋をまわつ八丁遊こしと
栗田はともえ日園茶十八丁と
十又丁とともえ入りの遊こしたのこ
一坊小豆茶と入七丁坊山田茶
多るわとともえ井の原智徳大
作十三丁坊とともえ十三丁坊

二里半

三井も教書

本町の教書は徳治ちよ山自他是より
奥の女人禁せと但し四月十六日七月
十又日女人も備とゆり寺

三井茶屋城古 ちん又千石

植武大倉山守の井茶智徳大郎の造

直なり天智天武持統三代の四代
徳不直古の關廻れ水とありて
湯とありてぬふ三井寺とありて後
城寺とありてむ。今も茶鉢筋井
。徳治の寺式お寺一切経を納めり
。徳治の寺式より寺ありて右徳治より
徳治古茶屋の寺ありとありて門を出
てぬの寺とありて早丁左の寺志
の起れちぬ

二里

唐崎大明神

一ツ松多木ありけり水の水は
経系と。又丁坊と坂本。七井柳
。田中寺と能。山と馬場とありて丁
。と坂本

△山より山と茶屋ありて今も

一切堂いっけどうのなへ八坂やせの里さとにかた建たて

東照宮御社とうしょうぐうごんやしろ

山王権現さんおうごんげん 二十一社ふたじゅういち

上七社かみしち中七社なかしち下七社したしち天智天皇てんちてん御宇ごう

花摘文はなとりぶみ 傳説大洲の母をあらえんせたいしゅうのぼろをあら

三里さんり 是れを二月八日こゝろ女にんの病びやうを治なす

比叡山延暦寺ひゑさんえんりやうじ 寺てらに又千石またせんいし

本物又岳ほんぶつまたたけのつとて玉たま鬼おに門かどふき南みなみ

延暦寺中えんりやうじちゆう修しゆの大師だいし建たて

根本中堂こんぽんちゆうどう 本ほんの茶ちや昨きのうの茶ちや

講堂かうどう 本ほんの太たい日にち如にょ來らい

戒壇堂かいだんどう 本ほんの釈しやく迦か葉えつ

隆たか義ぎ天皇てんかう弘こう仁にん十四年じゅうしよねん建たてたて

淨土院じやうとじゆいん 本ほんの修しゆの大師だいし

文殊樓もんじゆろう 本ほんの文ぶん殊じゆ并なら

前座院ぜんざじゆいん 本ほんの太たい日にち如にょ來らい

千手堂せんじゆどう 千せんの観くわん音おん

己上東塔

法華堂 本寺普賢堂

相法輪堂 本寺親如堂

常行堂 本寺弘法堂

椿堂 如名輪親堂と妻す
山門建立と云の書

相輪塔 本寺の古くは本寺の古くは
王城の古くは本寺の古くは
の古くは本寺の古くは

元忌各 本寺大師の作の
一と云く・廿六丁

ここの所
お給後横川と云十丁

横川中堂 本寺山親善堂
大師の作

慈恵大師殿 元二大師の年
此の所の相え云く・是より本寺と云十丁
矢野里と云十丁

金勤寺 相惠和尙の他津殿后立

辨財天 竹生傳より白地と化して
親向の報喜堂人弘法の所あり
ありしと云く・本寺と云

二里 本寺弘法堂
此の作・ころも云く二里

二里 矢野里 名所 あり

小原里 名所 善扶樹あり

常修院 権井宮 浄土宗 九百六十石

極楽院 浄土宗 九百六十石

喜多子の墓

若くは池 浄土宗の史所

負山精林寺 古刹 五十石

本寺は浄土宗阿彌陀寺と号す。浄土宗長
七尺康威作文治二年秋法統上人山
門大層と後備あり。此寺も浄土宗
を放ちり。浄土宗の阿彌陀寺といふ
と大原町と入。大なる寺もつぎ

三雲寺 古刹 谷光明日山阿彌陀寺 浄土宗

本寺の阿彌陀寺の浄土宗を彈誓

上人

浄の清水 名所 和光寺

寂光院 古刹 三十石

弘法大師は浄土宗を興す。此寺は
浄土宗の阿彌陀寺と号す。浄土宗
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺

江文社 浄土宗 阿彌陀寺 浄土宗

苗の芳より七まがり廿八丁 浄土宗
浄土宗の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺
の阿彌陀寺と号す。浄土宗の阿彌陀寺

三里

松尾山鞍馬寺

社額二百廿六石

本寺は丹波川天延曆十二年甲子
藤原勢人の争奪。傷心ゆゑハ丁り
傷心ゆゑ牛馬九年岳法師の傳説
・こまこまのり板七丁

三里七丁

こまこまのり

貴布祿社

社額 十二石

本寺水林園家女神有り西とのり
又西とのり止まれば又夫婦いのちのみを
ち清しめ小俗は縁結の社といふ
・奥の社ハ丁・東のりハ丁
・付ハ丁ハ丁・社二丁りて二の社
・七丁りて中野村ハ丁りて市東社
善法施き小町の古池屋像不壊あり
又七丁りてたし方傳説ハ丁

四十二丁

上賀茂社

社額二百七十五石

本社分家宮と社名は御の社也
として平安時代のころより有し此社
なりを院後ハ山岳あり川流あり
實ハ千七百の社地なりと傳説あり
人ナリ下との社ハも傳説ナリと云ふ
・十八丁あり

二十五丁

下鴨社

社額二百四十五石

本社神代書古社ハ天武天皇白
鳳元年造製。ハ合社南の入り
・南社と云ふありハ東川邊に東
大橋ありありあり寺剛通あり

乃江九十五石

次の月曜通

二東大橋よりお宿二里半
系の出づきふ土居の森あり
また二十丁はふさぶさうの東又
山内村

早十丁

大奈奈所

古伝六百石
磨唐寺といふ

推古天皇の宇奈川橋造す
奈川の森。お宿を西に徳さる所
お宿の傍に女宿あり。ここのまぢ
こまぢより橋がたつたあんな橋とて
よさが親がきくすむ十八丁まで
南へお宿十三丁あり

六十丁

龜龜山臨川寺

徳家十剎の十一

本寺の跡が弘法さま長安國所
長安國所。二丁あり

六十丁

龜龜山天龍寺

お宿七百廿石
又山中一

本寺の跡が弘法さま長安國所
利基の氏の本所。後醍醐天皇の御
お宿をさかす

月所

嵐山

梅の名所。二丁あり

大堰川

嵐山の林蔭掛川

後月橋

お宿をさかす。二丁

早十丁

野々宮

桓武天皇延暦廿二年御遷都。東の

とりのこしんがさ
もろろ小宮権右左衛門の遺児なりあり
伊勢の斎宮ふたむすぶ女清三年ふ
御守母一りあり。口丁

六十八丁

小倉山二尊院

古叙百十五石
旧宗二尊院

本寺新加の孫院二尊院。後醍醐天皇
御創。後法皇上人。宗居一りあり
。是引の山敷。後山と小倉山と云
定家山と云古叙。口丁

七十丁

紙之寺

性生院と号
淨土宗

本寺孫院。伝は一人。紙之妓女伝
。五つかりく伝は一人。あり

三之寺

本寺孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は

七十三丁

会佛寺

わが寺あり

本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は
。本寺の孫院。伝は一人。孫院は

○ 本寺一ノ寺

○ 試の坂

○ 大いせ権現 坂中一町

三ノ寺

社名一ノ寺

本殿阿古子山権現を本神位并後宮
（阿古子の山権現を本神位并後宮の
 本殿を造る事此の御本神位并後宮の
 御後神として大定と云りありありへ
 智の御事小ありと光仁天皇天皇元
 年より後には御事多ふことと）
 ○奥院 大天物を扁榜を有る
 ・もろをあらをたりあり七十三丁

三丁半

徳会山月輪寺

本寺の親母高祖師を法持上人親
（本寺の親母高祖師を法持上人親
 尊聖人月輪殿下の像の御事此の御後
 法持本與の九東宮白を殿大良宮と云こ
 ○志公の像 仁孝の御事此の御事
 ・はるより梅尾尾尾尾尾あり
 ・りの清きまき出一の御事此の御事
 りる八丁あり）

法十六丁 又基山清涼寺

古殿九十七丁
（古殿九十七丁
 本寺の親母加佛 赤梅権を御事此の御事
 毘首親母天の御事此の御事此の御事
 かり一乘院御事此の御事此の御事）

大覚寺宮

御家八丁

○たのき方十四町あり
 廣沢池 月輪寺 四丁あり

了海上人屋室 ○常と池

鳴龍妙光寺

本寺の親母加佛 御事此の御事此の御事
（本寺の親母加佛 御事此の御事此の御事
 内大信師御事此の御事此の御事
 の御事此の御事此の御事）

・小川ありき屋乃らうり早三丁

泉谷法苑寺 五葉藤宗

本寺の通名真公傍の作事奉
百拙和尚・三丁り

早三丁 おんきん 妙光寺内

早三丁 おんきん 寺内口方惣早合なり・又丁り

仁和寺宮 源家於千五百名
内室四所と稱す

清後の山本國八十八軒所より
て旅人巡拜なすりめり又中書
楊樹多し名所なり・六丁り

早二丁 おんきん 正法山妙心寺 寺内口方惣早合なり・又丁り

本寺釈伽山守山入冥山園所

花聖院山建立・早一丁

早一丁 おんきん 大雲山徳女寺 寺内口方惣早合なり・又丁り

本寺釈伽山守山入冥山園所
幸申細川緒元再建初の大徳女
徳公の山莊なり。寺内之池ありま
冬より水ありあまのり懸し・早一丁

早一丁 おんきん 平等持院 寺内口方惣早合なり・又丁り

本寺地蔵井守山入冥山園所
早利寺内建立。是利十二代の本
後あり

・山ありきありし今出川通と稱す
早一丁

本寺法性寺五里余

○あつの明威村より右の方四丁三丁

三里余

三雄山行儀寺

寺領二百九十八石

光仁天皇(四丁)御宇清和宮勅とす
て造立・奥院地蔵堂山中加納
多し一ヶ所あり

二里余

松尾山平宮院

寺領二十石

本寺の親加(一丁)明惠上人の作(一書)
智恵法師

二里余

梅尾山(三丁)寺

寺領二十八石

本寺の親加(一丁)明惠上人の作(一書)より
なり

○けこふと下る法寺(寺)

此の日記

伊東通をありき居の敷を
八町
八町
八町

六丁
梅宮社

社領六十石

酒解子(一丁)和幸申(一丁)徳林(一丁)
女(一丁)子(一丁)と(一丁)徳(一丁)林(一丁)と(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)
猿(一丁)雄(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)
志(一丁)き(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)
故(一丁)小(一丁)寺(一丁)入(一丁)り(一丁)り(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)
所(一丁)を(一丁)志(一丁)き(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)
生(一丁)所(一丁)なり(一丁) ・ 桂(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)の(一丁)り(一丁)り(一丁)

六丁

智福山法輪寺

寺領七十石

本寺は虚言の爲に昌は所作天平
年中建仁年中興通昌傳教。毎年
三月十二日商年十二日の男女児士
とくも集結群集す。七丁

六十四丁

松尾社

社収九百二十石

本社多々和太山作津市持書地
大室元年奉教理とて人建仁六丁

七十二丁

兼宗山淨住寺

黄檗宗

本寺如三輪親善天竺仏にて後牛
和尙慈傳のそ像なり元是中細
まわの軍居の知あり。十丁

櫻原村

はなと宿屋あり

はなと宿屋あり

三里余

小塩山勝持寺

信花の寺と云
ありの古処

本寺も兼宗山淨住寺大所作文徳天
白山字松尾上人中興奉書。本寺
類中寺名風。あり上人奉書。同極
坊内楊梅多し。忠志。七丁

四里余

西岩倉金藏寺

天台宗

本寺十一面観音青向日明神也作
年奉書隆徳深作。一院二院三院
あり又西岩倉といふ平安棟造
のとき日徳の田字経とてありふ
はなと宿屋あり。忠志。七丁

四里余

西山三法寺

田舎の山

本寺は眼曼陀羅親性法師の寺
日本にこのまんだらを奉持する
中興の者ある人。南山の法頂の
嶽より三峯の形に法を傳ふる
名とす

・十丁

西山善峰寺

西國二十番札所
天台宗

本寺の子子親善法師が阿闍梨の
親善法師の本の善峰に善法源寺と
人後、東院山守長久二年建立す

小塩山十輪寺

天台宗

本寺親善法師が山は善法源寺の
くぬふ法師のひくぬふり禪教親善と云

・二十丁

西生光明寺

ちん 二十名

西山の義の一寺の本寺善法源寺
善法源寺と人曰ふに法蓮のふと善法源
の法良とありて法蓮のふと善法源と云ふ
とこの山に法蓮のふと善法源と云ふ
法蓮のふと善法源と云ふ

向日明神

社数二十七石

本寺の所請請羽鳥本合寺・地元の
神の本殿の善法源寺向日明神と云ふ
は本寺の本殿の善法源寺向日明神と云ふ

長岡天満宮

本寺の所請請羽鳥本合寺・地元の
神の本殿の善法源寺向日明神と云ふ
は本寺の本殿の善法源寺向日明神と云ふ

給かり玉宮神志草野村よりつりあつた
けし新ふらぎをまがけ止あのみ祐房と云
みの心餘波と情けの宮神志よりつりあ
容とつりあのみあことつりあ社あり
細くまきとて風系とて十八丁

三雲余
木と奥海柳寺
まんざんあり
まんざんあり

本寺より千石親青弘は大作作家
乃雄信助二宮の力士八里を文作十六丁

三雲寺
柳谷親青堂
まんざんあり
まんざんあり

本寺より千石親青白川院中水親上人
深谷の地。揚柳の池の本堂のたあり
月病と患する人けしあまのり自生路と家

小倉社

本殿正一位小倉大明神例祭四月
又月之け近村の春を祭とす毎年
四月二日祭あり

圓明寺
小倉山の南

本寺より系所如蘇女徳志子の作地
九條殿下る家と村創りて跡る香
明寺根政実徳と宗名あり六丁

親音寺
五丁山の南後あり

本寺より親音寺を徳志子の作中興
本寺より後山と云下

補陀洛山と積寺
五丁寺とあり
古久六十八

本宮記卷首再武市初基大土の
あはれ。お出の小越竹金なり

妙法菴

禪宗

本宮十一面観音。千利休け新と佐
して園と建てる秀吉を掛りあはれと

離宮八幡宮 社数七百名

南法貞観元年正月十五日
あはれ。お出の小越竹金なり
より清水湧出。秀吉を掛りあはれ
お出の小越竹金なり。又は此
弘仁帝の離宮なり。より離宮八幡宮
と稱す

大山崎天王社 社数

あはれ。お出の小越竹金なり
お出の小越竹金なり。又は此
弘仁帝の離宮なり。より離宮八幡宮
と稱す

淀大川 日本三大川のこと
己橋より橋をくぐり 掘川のさくさく
十二丁

石清水八幡宮 社数七百四十名

本社奉田天皇玉依姫神切皇孫三貴
とある貞観二年六月十五日造る河内
のあはれ。お出の小越竹金なり

淀川院古坂通古坂九里余
八幡の圃とすきと
淀大橋

淀西城 門小橋 門孫橋

とまきうり横ち務りも羽とむ(権上) ごんじやう
とつゝ知りあへず丁

城南宮 ちなんみやう 社殿 しゃでん

例祭九月廿日多羽塔の表行目上の
氏律寺・六丁

北の不動院 きたのふどういん

本寺より勅明王奥殿大所作道院の
多羽上の御建立・二丁
○あゆむ徳 あゆむとく 一丁

安東寺院 あんどうじいん 多羽離文の地

本心院本寺正字の縁地新心院の
本寺地花井定知の作 ほんじやう

多羽より仲中務通と東洞院通と
二つありて東洞院行田御所
りつまらふ東大務を早丁身と
仲中務の御所と早七八町と

土御門殿 つちのみかど 治和梅津村 ちわうばいすむら
天文信陽殿の御所 てんぶんしんやう

御構内と泰山府君御所天
社宮と唱入 天文正堂あり

けり寺を通社社松園名所古の殿と

之の里敷きく又御所の後ありき

又御所と並者と後ありき

洛陽諸巡拜

洛陽諸巡拜

○天滿宮元正天皇御

一 菅大臣天神

松尾寺新所入

二 地蔵菩薩天神

口北久一

三 醍醐天神

醍醐寺古所入

四 東寺天神

本古中

五 吉祥地天神

吉祥地村

六 山衛天神

松尾山衛所

七 網島天神

口一丁東寺寺

八 一夜天神

牛生首山所

九 天道天神

松尾寺法華所

十 四國天神

口深寺古所入

神台所院

十一	高松天神	姉妹西院末又
十	六角天神	六角境内奉安
九	綿一天神	古所尾少所
八	紙置天神	奉社のうしろ
七	下宮天神	奉社のうしろ
六	菅家天神	古所今出川元
五	古瀬天神	奉社のうしろ
四	上皇天神	奉社のうしろ
三	水天天神	堀川上皇元
二	清和天神	奉社元
一		清和院

○ 治陽二十三所観音

十一	東園天神	山皇末院所
十	文子天神	山皇随二所
九	経雲天神	新向院所
八	林野天神	北地

十一	六角堂	六角本所院西入
十	長金古	堀兼所の北より
九	草堂	古河竹也所切面
八	下湯	日 北より
七	新長谷古	古田山古
六	古田寺	黒谷山古
五	長樂寺	东山

八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五

七 親音
青 龍 寺
地 蔵 院
清 水 奥 院
同 本 堂
法 倉 堂
泰 春 寺
六 波 羅
妙 宗 寺
善 徳 寺
親 音 寺

下川原の親音寺
青龍寺の南の
地蔵院の南
清水寺の南
きつら
同
同本堂の南
日蓮寺の塔
松本建仁寺の南
六波羅の南
大仏寺の南
泉涌寺
之徳寺

十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四

泉 涌 寺
法 性 寺
成 興 寺
東 寺
長 春 寺
一 善 寺
正 運 寺
親 音 寺
西 運 寺
長 春 寺
地 蔵 院
親 音 寺

揚子泉親音寺
本願寺の南
本願寺
松本をたつた
南院の南
増上院の南
正運寺の南
西運寺の南
長春寺の南
地蔵院の南
親音寺の南
小井原の親音

順五拜

九

三 天王寺 門前橋敷のあり
 三 清和院 七奉教一書と云

○四十八軒所也り

一 智徳寺 後中徳天皇のあり
 二 休勢寺 徳宗天皇のあり
 三 淨徳院 西ノ東
 四 東光寺 大徳寺の切を有
 五 西宮寺 山中にあり
 六 大徳寺 丁字を有る
 七 淨福寺 日ノ中あり
 八 石像寺 五奉教一書と云

九 善量寺 石像寺のあり
 十 祿念寺 石像寺のあり
 十一 報務寺 安古石に階あり
 十二 報恩寺 上ノ東あり
 十三 冥持院 本中ノあり
 十四 西園寺 寺あり
 十五 光明寺 寺あり
 十六 阿彌陀寺 日下あり
 十七 佛陀寺 門あり
 十八 善如堂 東山あり
 十九 淨花院 寺あり
 二十 安養寺 川あり

巽 了蓮寺 日 湯中後上
 巽 安壽寺 日 所
 巽 系福寺 日 明系所
 巽 誓教寺 日 二系九

○ 法華寺 日 寺
○ 中ハ一致△ 系 湯中
 誓 二 中 二 中 二 中

一 奉園寺 日 松系城川下
 二 誓光寺 日 一 中 河 松系 下
 三 妙光寺 日 小 系 系 系 系 系
 四 華光寺 日 出 系 千 寺 系 入
 五 巨牛寺 日 中 系 七 中 系 下
 六 奉瑞寺 日 子 系 通 二 下 系

七 奉隆寺 日 智 系 系 系 系 系
 八 妙蓮寺 日 中 系 系 系 系 系
 九 妙願寺 日 古 系 系 系 系 系
 十 奉法寺 日 小 系 系 系 系 系
 十一 妙覺寺 日 日 系 系 系 系 系
 十二 奉油寺 日 古 系 系 系 系 系
 十三 奉若寺 日 古 系 系 系 系 系
 十四 法性寺 日 古 系 系 系 系 系
 十五 妙傳寺 日 二 系 系 系 系 系
 十六 寂光寺 日 日
 十七 妙泉寺 日 日 系 系 系 系 系
 十八 要法寺 日 日

五 妙法寺 △ 日二条下
 六 頂妙寺 ○ 二条川東
 七 奉徳寺 △ 与所下

○ 地苑廿四ヶ所

一 壬生寺
 二 万年寺
 三 光林寺
 四 勅学院
 五 休勢寺
 六 善想寺
 七 法心寺

一 壬生寺
 二 万年寺
 三 光林寺
 四 勅学院
 五 休勢寺
 六 善想寺
 七 法心寺

八 地苑院
 九 淨福寺
 十 長策寺
 十一 石像寺
 十二 地苑院
 十三 蓮巻寺
 十四 奥智寺
 十五 西林寺
 十六 三福寺
 十七 安名寺
 十八 久田寺
 十九 法常寺

八 地苑院
 九 淨福寺
 十 長策寺
 十一 石像寺
 十二 地苑院
 十三 蓮巻寺
 十四 奥智寺
 十五 西林寺
 十六 三福寺
 十七 安名寺
 十八 久田寺
 十九 法常寺

北 廿 廿 廿 廿

生々山
了建寺
十住心院
仲源寺
十輪院
六波羅寺

北平の地蔵
円光寺
深板地蔵
円光寺
目録の地蔵
円光寺
六波羅の門
円光寺

○ 六波羅

一 二 三 又

伏見
掛
山科
寺
乾
坤
東
西



願五拜

